国語 四 下

はばたき

白鳥のやって来た空から、
ふわりふわりとまい下りてくるのは、
あれは雪ではなくて、
たくさんの白鳥のはばたきから
飛び散ってくる、
小さな羽ではないのでしょうか。

この本で学習するみなさんへ

この本では、次の印が使われています。

- 話したり聞いたりしましょう。
- 書きましょう。
- 読みましょう。
- 言葉の学習をしましょう。
- 覚えておきましょう。他の学習や生活の中でも役に立ちます。
- 国語の学習に用いる言葉をたしかめましょう。
- 学習を進めるときに気をつけることなどをまとめています。
- 音声を聞いて、学習しましょう。
- 学習に関係のあるページをしめしています。

文字や言葉の印

○ 新しく学習する漢字。

● 読み方が新しい漢字。音はかたかなで、訓は平がなでしめしてあります。

◆ 特別な読み方をする言葉。

この印があるところには、学習の助けとなる資料があります。読み取るときには、必ず、先生やおうちの方といっしょに行いましょう。

目次

四年生の国語の学びを見わたそう …… 4
じょうほう 分ける・くらべる …… 9
つづけてみよう …… 10

❶ 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう 読む
ごんぎつね 新美 南吉 …… 11

クラスみんなで決めるには 話す・聞く …… 36

❷ 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう 読む 書く
世界にほこる和紙 増田 勝彦 …… 43
じょうほう 百科事典での調べ方 …… 52
伝統工芸のよさを伝えよう …… 53

慣用句 …… 58
短歌・俳句に親しもう（二） …… 60

❸ 登場人物の変化を中心に読み、物語をしょうかいしよう 読む
プラタナスの木 椎名 誠 …… 63

感動を言葉に 書く …… 77

詩の楽しみ方を見つけよう 読む
自分だけの詩集を作ろう …… 82
言葉 熟語の意味 …… 84

❹ きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう 読む
ウナギのなぞを追って 塚本 勝巳 …… 87
つながりに気をつけよう …… 101

もしものときにそなえよう 書く …… 105

調べて話そう、生活調査隊 話す・聞く …… 112
言葉 まちがえやすい漢字 …… 117

❺ 読んで感じたことをまとめ、伝え合おう 読む
初雪のふる日 安房 直子 …… 119

季節の言葉 秋 34 冬 80
漢字の広場 ④ 42 ⑤ 62 ⑥ 86

付録 学習を広げよう
「たいせつ」のまとめ …… 140
聞くことのトレーニング …… 144
本の世界を広げよう …… 146
百人一首に親しもう …… 148
これまでに習った漢字 …… 150
この本で習う漢字 …… 157
言葉のたから箱 …… 161

四年生の

国語の学びを見わたそう

これから国語の学習が始まります。みんなで考え、学びを深めていくために、学習の進め方と、これから学ぶことをたしかめましょう。

学習の進め方

初めに

「こんなことがしたい。」
「こうすればできそう。」
「どうして――だろう。」

▼

読む　書く　話す・聞く

▼

ふりかえる

「考えが変わった。」
「知っている言葉がふえた。」
「次はこんなふうにしてみよう。」

▼

学習や生活にいかす

「――のときに，
いかすことができそう。」
「この言葉を使ってみよう。」

四年生で学習すること

これから学ぶことをたしかめたり、学習したことをふり返ったりして、言葉の力を高めていきましょう。

話す・聞く

クラスみんなで決めるには ……36
役わりをいしきしながら話し合う　議題

調べて話そう、生活調査隊 ……112
調べたことを発表する

上
こんなところが同じだね
聞き取りメモのくふう
聞きながらメモを取るときは
あなたなら、どう言う　かじょう書き　要点

書く

伝統工芸のよさを伝えよう ……53
理由や例を挙げて考えを伝える　出典

感動を言葉に ……77
読み返して、書いたものを整える

もしものときにそなえよう ……105
文章の感想を伝え合う

上
お礼の気持ちを伝えよう
手紙で気持ちを伝える
新聞を作ろう
事実を分かりやすく伝える　見出し　取材　わりつけ　アンケート調査

四年上までの学びをたしかめよう

決める集める

- 相手や目的に合わせて、伝えたいことを決め、メモなどに書き出す。

じゅんびする

- 伝えたいことに合う理由や資料を選ぶ。

話す・聞く

話す
- 聞き手を見て、様子をたしかめる。
- 声の調子や話す速さなどに気をつける。

聞く
- 話す人の方を見ながら聞く。
- 記号を使ったり、かじょう書きにしたりして、すばやくメモを取る。

話し合う
- 話し合いの目的や進め方、自分の役わりなどを考えながら話し合う。
- 友達の考えと同じところや、ちがうところに気をつける。

つなげる

- 話したり聞いたり話し合ったりして、気がついたことを伝え合う。

15

決める集める

- 一人で考えたり、友達と話したりして、何について書くかを決める。
- 書くもののことを、短い言葉や文でメモし、伝えたいことの中心を明らかにする。

組み立てる

- まとまりごとに段落を分け、「初め」「中」「終わり」などの組み立てを考える。
- 新聞では、記事の大きさなどによって、わりつけを考える。

書く

- 分かったことと考えたことを分けて書く。
- 例を挙げる順序や、絵や写真、図表の使い方を工夫して分かりやすく書く。
- 書いたものを読み返し、まちがいや読みにくいところを直す。

つなげる

- 自分の文章に対する感想を知ると、内容や書き方のよいところがよく分かる。

15

読む

説明する文章

世界にほこる和紙……43
要約する

ウナギのなぞを追って……87
感じ方のちがいに気づき、よさを見つける

上
思いやりのデザイン アップとルーズで伝える
筆者の考えをとらえる
パンフレットを読もう
対比

物語・詩

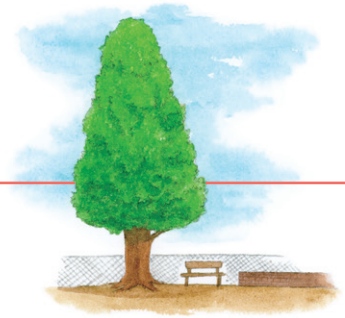
ごんぎつね……11
人物や物語に対する考えを深める
情景

プラタナスの木……63
登場人物の変化と、出来事の関係をとらえる

自分だけの詩集を作ろう……82

初雪のふる日……119
感じ方のちがいを楽しむ

上
春のうた
白いぼうし
一つの花
場面と場面のつながりを考える
特別な言葉に着目する
設定



言葉

言葉の使い方

熟語の意味……84
つながりに気をつけよう……101
まちがえやすい漢字……117
漢字の広場④～⑥

上
漢字の組み立て
漢字辞典の使い方
カンジーはかせの都道府県の旅 1 2
つなぎ言葉のはたらきを知ろう
いろいろな意味をもつ言葉
漢字の広場①～③

じょうほう

分ける・くらべる……9
百科事典での調べ方……52

上
分ける・くらべる
考えと例
要約するとき
要約

受けつがれる言葉

慣用句……58
短歌・俳句に親しもう（一）（二）……60
季節の言葉 秋・冬

上
短歌・俳句に親しもう（一）
きせつの言葉 春・夏

読書

上
図書館の達人になろう
事実にもとづいて書かれた本を読もう
事実にもとづいて書かれた本を読む
ランドセルは海をこえて

四年上までの学びをたしかめよう

とらえる

説明する文章

- 筆者の考えは、文章の初めと終わりの両方に書かれていることが多い。（5）
- 段落どうしの関係をたしかめ、筆者の考えをとらえる。

物語・詩

- 登場人物のしたことや言ったこと、気持ちを表す言葉に気をつける。（5）
- 話の組み立てをとらえながら読む。

ふかめる

説明する文章

- 大事な言葉や文が何かを考える。（10）
- 例を挙げる順序や写真の使い方など、筆者の例の書き方に気をつける。（15）

物語・詩

- 人物や場面の様子を表す言葉に気をつけて、場面のつながりを見つける。（10）
- 題名や重要な場面などでくり返し用いられている言葉に着目する。（15）

まとめる

- 書かれていることと、自分の知っていることなどをつなげて、感想や考えをまとめる。

ひろげる

- 読んだ感想を伝え合うときには、自分の考えと同じところやちがうところに着目して聞く。（5）

じょうほう

考えるときに使おう

分ける・くらべる

分ける

物事や考えをいくつかに分けたときは、次のような言葉で相手に伝えることができます。

- ——という点から、大きく三つに分けました。
- ——と——がこのように分けられるのは、——。

なかま分けしたグループを、さらに大きなグループにまとめることがあります。どのようにまとめたのか、伝えましょう。

「もしものときにそなえよう」107ページ

5

くらべる

物事や考えをくらべたときは、次のような言葉で相手に伝えることができます。

- ——という点でくらべてみると、——。
- ——に対して、——は——。

物事や考えの前と後をくらべると、変化が分かります。いつといつをくらべたのか、何がかわったのか、はっきり伝えましょう。

「クラスみんなで決めるには」40ページ

5

つづけてみよう

いろいろな辞典に親しもう

国語辞典を使うことにはなれましたか。辞典には、他にも、漢字辞典やことわざ辞典、類語辞典など、いろいろな種類があります。それらを使って、言葉の知識を広げましょう。

最近の出来事を、辞典で見つけた言葉や漢字を使って表してみましょう。選んだ言葉や漢字は、出来事といっしょに、みんなにしょうかいしたり、ノートに書いたりしてもいいですね。

ぼくの、最近の出来事を表す漢字は、「信」です。体育でなかなかとび箱がとべなくてくろうしていましたが、今井さんのアドバイスを信じてやってみたらうまくいきました。やればできるという自信がつきました。

読む

気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

1 ごんぎつね

この物語には、小ぎつねの「ごん」が出てきます。「ごん」は、どんなきつねでしょうか。そして、「ごん」には、どんなことが起こるのでしょうか。

これまでの学習

- 場面と場面のつながりを考える（白いぼうし）……上28ページ
- 特別な言葉に着目する（一つの花）……上80ページ

ごんぎつね

新美 南吉 作
かすや 昌宏 絵

一

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

昔は、わたしたちの村の近くの中山という所に、小さなお城があって、中山様というおとの様がおられたそうです。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりしました。畑へ入っていもをほり散らしたり、菜種（とうがらし）からのほしてあるのへ火をつけたり、百姓家のうら手につるしてあるとんがらしをむしり取っていったり、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました。

雨があがると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました。

ごんは、村の小川のつつみまで出てきました。あたりのすすきのほには、まだ雨のしずくが光っていました。川は、いつもは水が少ないのですが、三日もの雨で、水がどっとましていました。ただのときは水につかることのない、川べりのすすきやはぎのかぶが、黄色くにごった水に横だおしに

○変化
○菜種
●百姓家

○ふり続く
●小川

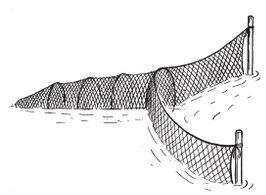
なって、もまれています。ごんは、川下の方へと、ぬかるみ道を歩いていきました。

ふと見ると、川の中に人がいて、何かやっています。ごんは、見つからないように、そうっと草の深い所へ歩きよって、そこからじっとのぞいてみました。

「兵十だな。」と、ごんは思いました。兵十は、ぼろぼろの黒い着物をまくし上げて、こしのところまで水にひたりながら、魚をとるはりきりというあみをゆすぶっていました。はちまきをした顔の横っちょうに、円いはぎの葉が一まい、大きなほくろみたいにへばりついていました。

しばらくすると、兵十は、はりきりあみのいちばん後ろのふくろのようになったところを、水の中から持ち上げました。その中には、しばの根や、草の葉や、くさった木切れなどが、ごちゃごちゃ入っていましたが、でも、ところどころ、白い物がきらきら光っています。それは、太いうなぎのはらや、大きなきすのはらでした。兵十は、びくの中へ、そのうなぎやきすを、ごみといっしょにぶちこみました。そして、また、ふくろの口をしばって、水の中へ入れました。

兵十は、それから、びくを持って川から上がり、びくを土手に置いといて、何をさがしにか、川上の方へかけていきました。



はりきりあみ

きす
ここでは、川魚のはやのこと。

びく
とった魚を入れておくかご。

兵十がいなくなると、ごんは、ぴょいと草の中から飛び出して、びくのそばへかけつけました。ちょいと、いたずらがしたくなったのです。ごんは、びくの中の魚をつかみ出しては、はりきりあみのかかっている所より下手の川の中を目がけて、ぽんぽん投げこみました。どの魚も、トボンと音を立てながら、にごった水の中へもぐりこみました。

いちばんしまいに、太いうなぎをつかみにかかりましたが、なにしろぬるぬるとすべりぬけるので、手ではつかめません。ごんは、じれったくなって、頭をびくの中につっこんで、うなぎの頭を口にくわえました。うなぎは、キュッといって、ごんの首へまきつきました。そのとたんに兵十が、向こうから、

「うわあ、ぬすっとぎつねめ。」

とどなり立てました。ごんは、びっくりして飛び上がりました。うなぎをふりすててにげようとしましたが、うなぎは、ごんの首にまきついたままはなれません。ごんは、そのまま横っ飛びに飛び出して、一生けんめいににげていきました。

ほらあなの近くのはんの木の下でふり返ってみましたが、兵十は追っかけては

来ませんでした。

ごんはほっとして、うなぎの頭をかみくだき、やっと外して、あなの外の草の葉の上にのせておきました。

2

十日ほどたって、ごんが弥助というお百姓のうちのうらを通りかかりますと、そこのいちじくの木のかげで、弥助の家内が、お歯黒をつけていました。かじ屋の新兵衛のうちのうらを通ると、新兵衛の家内が、かみをすいていました。ごんは、「ふふん、村に何かあるんだな。」と思いました。「なんだろう、秋祭りかな。祭りなら、たいこや笛の音がしそうなものだ。それにだいいち、

家内
自分の妻をよぶ言い方の一つ。ここでは、弥助の妻のこと。

お歯黒
昔、けっこんした女の人は、歯を黒くそめた。そのために使ったもの。

お宮にのぼりが立つはずだが。」

こんなことを考えながらやって来ますと、いつのまにか、表に赤い井戸のある兵十のうちの前へ来ました。その小さなこわれかけた家の中には、おおぜいの人が集まっていました。よそ行きの着物を着て、こしに手ぬぐいをさげたりした女たちが、表のかまどで火をたいています。大きなべの中では、何かぐずぐずにえていました。

「ああ、そうしきだ。」と、ごんは思いました。「兵十のうちのだれが死んだんだろう。」

お昼がすぎると、ごんは、村の墓地へ行って、六地蔵さんのかげにかくれていました。いいお天気で、遠く向こうには、お城の屋根がわらが光っています。墓地には、ひがん花が、赤いきれのようにさき続いていました。と、村の方から、カーン、カーンと、かねが鳴ってきました。そうしきの出る合図です。

やがて、白い着物を着たそうれつの者たちがやって来るのが、ちらちら見え始めました。話し声も近くなりました。そうれつは、墓地へ入ってきました。人々が通ったあとには、ひがん花がふみ折られていました。

ごんは、のび上がって見ました。兵十が、白いかみしもを着けて、いはいをささげています。いつもは、赤いさつまいもみたい

六地蔵
墓地や道ばたなどに、六体ならべてまつった地蔵。

かみしも
上下でひとそろいになった、昔の正式なふくそう。ここでは、そうしきのとき、男の人が着る白いかみしものこと。

ふみ折る。

な元気のいい顔が、今日はなんだかしおれていました。

「ははん、死んだのは、兵十のおっかあだ。」ごんは、そう思いながら頭を引っこめました。

そのばん、ごんは、あなの中で考えました。「兵十のおっかあは、とこについていて、うなぎが食べたいと言ったにちがいない。それで、兵十が、はりきりあみを持ち出したんだ。ところが、わしがいたずらをして、うなぎを取ってきてしまった。だから、兵十は、おっかあにうなぎを食べさせることができなかった。そのまま、おっかあは、死んじゃったにちがいない。ああ、うなぎが食べたい、うなぎが食べたいと思いながら死んだんだろう。ちょっ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」

3

兵十が、赤い井戸のところで麦をといでいました。

兵十は、今までおっかあと二人きりで、まずしいくらしをしていたもので、おっかあが死んでしまっては、もうひとりぼっちでした。「おれと同じ、ひとりぼっ

おっかあ お母さん。

積む。

ちの兵十か。」こちらの物置の後ろから見ていたごんは、そう思いました。

ごんは、物置のそばをはなれて、向こうへ行きかけますと、どこかで、いわしを売る声がします。

「いわしの安売りだあい。生きのいい、いわしだあい。」

ごんは、そのいせいのいい声のする方へ走っていきました。と、弥助のおかみさんが、うら戸口から、

「いわしをおくれ。」

と言いました。いわし売りは、いわしのかごを積んだ車を道ばたに置いて、ぴかぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助のうちの中へ持って入りました。

ごんは、そのすき間に、かごの中から五、六ぴきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしまし

た。そして、兵十のうちのうら口から、うちの中へいわしを投げこんで、あなへ向かってかけもどりました。とちゅうの坂の上でふり返ってみますと、兵十がまだ、井戸のところで麦をといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。

次の日には、ごんは山でくりをどっさり拾って、それをかかえて兵十のうちへ行きました。

うら口からのぞいてみますと、兵十は、昼飯を食べかけて、茶わんを持ったまま、ぼんやりと考えこんでいました。変なことには、兵十のほっぺたに、かすりきずがついています。どうしたんだろうと、ごんが思っていますと、兵十がひとり言を言いました。

「いったい、だれが、いわしなんかを、おれのうちへ放りこんでいったんだろう。おかげでおれは、ぬすびとと思われて、いわし屋のやつにひどいめにあわされた。」

と、ぶつぶつ言っています。

昼飯。

ごんは、これはしまったと思いました。「かわいそうに兵十は、いわし屋にぶんなぐられて、あんなきずまでつけられたのか。」

ごんはこう思いながら、そっと物置の方へ回って、その入り口にくりを置いて帰りました。

次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持っていきました。

4

月のいいばんでした。ごんは、ぶらぶら遊びに出かけました。中山様のお城の下を通って、少し行くと、細い道の向こうから、だれか来るようです。話し声が聞こえます。チンチロリン、チンチロリンと、松虫が鳴いています。

ごんは、道のかたがわにかくれて、じっとしていました。話し声は、だんだん

松たけ。

近くなりました。それは、兵十と、加助というお百姓でした。

「そうそう、なあ、加助。」

と、兵十が言いました。

「ああん。」

「おれあ、このごろ、とても不思議なことがあるんだ。」

「何が。」

「おっかあが死んでからは、だれだか知らんが、おれにくりや松たけなんかを、毎日毎日くれるんだよ。」

「ふうん、だれが。」

「それが分からんのだよ。おれの知らんうちに置いていくんだ。」

○不思議（フシギ）

ごんは、二人の後をつけていきました。

「ほんとかい。」

「ほんとだとも。うそと思うなら、あしたの見に来いよ。そのくりを見せてやるよ。」

「へえ、変なこともあるもんだなあ。」

それなり、二人はだまって歩いていきました。

加助が、ひょいと後ろを見ました。ごんはびくっとして、小さくなって立ち止まりました。加助は、ごんには気がつかないで、そのままさっさと歩きました。吉兵衛というお百姓のうちまで来ると、二人はそこへ入っていきました。ポンポンポンポンと、木魚の音がしています。まどのしょうじに

木魚
おきょうを読むときにたたく、木でできた道具。

明かりが差していて、大きなぼうず頭がうつって、動いていました。ごんは、「お念仏があるんだな」と思いながら、井戸のそばにしゃがんでいました。しばらくすると、また三人ほど人が連れ立って、吉兵衛のうちへ入っていきました。

おきょうを読む声が聞こえてきました。

5

ごんは、お念仏がすむまで、井戸のそばにしゃがんでいました。兵十と加助は、またいっしょに帰っていきます。ごんは、二人の話を聞こうと思って、ついていきました。兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。

お城の前まで来たとき、加助が言いだしました。

「さっきの話は、きっと、そりゃあ、神様のしわざだぞ。」

「えっ。」

と、兵十はびっくりして、加助の顔を見ました。

「おれはあれからずっと考えていたが、どうも、そりゃ、人間じゃない、神様だ。神様が、おまえがたった一人になったのをあわれに思わっしゃって、いろんな

差す。

お念仏。

お念仏　ここでは、おおぜいの人が集まって念仏をとなえることをいう。

連れ立つ。

物をめぐんでくださるんだよ。」

「そうかなあ。」

「そうだとも。だから、毎日、神様にお礼を言うがいいよ。」

「うん。」

ごんは、「へえ、こいつはつまらないな。」と思いました。

「おれがくりや松たけを持っていってやるのに、そのおれには礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃあ、おれは引き合わないなあ。」

6

その明くる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。兵十は、物置で縄をなっていました。それで、ごんは、うちのうら口から、こっそり中へ入りました。

そのとき兵十は、ふと顔を上げました。と、きつねが

「しあこうちの中へ入ったではありませんか。ないだ、うなぎをぬすみやがったのごんぎつねめが、またいたずらをに来たな。

ようし。」

兵十は立ち上がって、なやにかけある火縄じゅうを取って、火薬をめました。そして、足音をしのばせ近よって、今、戸口を出ようとするんを、ドンとうちました。

ごんは、ばたりとたおれました。

兵十はかけよってきました。うちのを見ると、土間にくりがかためて置てあるのが、目につきました。

火縄じゅう
昔のてっぽう。縄に火をつけ、その火が火薬にうつってたまがうち出される。

「落とおや。」

兵十はびっくりして、ごんに目をとしました。

「落ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは。」

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

兵十は、火縄じゅうをばたりと取りとしました。青いけむりが、まだつ口から細く出ていました。

新美 南吉
一九一三〜四三年。愛知県生まれ。作家。「おじいさんのランプ」「花のき村と盗人たち」などの作品がある。

見通しをもとう

気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

- 気持ちを表す言葉や、情景のえがかれ方に気をつけましょう。
- 物語について話し合い、考えを深めましょう。

とらえよう

●「ごん」は、どんなきつねですか。それは、どこから分かりますか。

●「ごん」と「兵十」の気持ちをたしかめましょう。 1

- 「ー」から「5」までの場面で、「ごん」が「兵十」にしたことと、そのときの「ごん」の気持ち。
- 「6」の場面で、「兵十」が知ったことと、そのときの「兵十」の気持ち。

ふかめよう

●情景や、場面の様子が目にうかぶような表現を見つけましょう。そして、その表現からどんなことが分かるかを、友達と話しましょう。 2

●「ごん」と「兵十」の気持ちには、どのような変化があります。次のことに気をつけて、考えましょう。

- 「ごん」が「兵十」について、思ったり考えたりしたこと。
- 「兵十」が「ごん」のことを表すときに使った言葉。

まとめよう

●くわしく読んで分かったことや感じたことをもとに、物語や人物についての考えをまとめましょう。

ひろげよう

●考えたことを発表しましょう。そして、さらに考えを深めたいことについて、グループでテーマを決めて、話し合いましょう。 3 4

ふりかえろう

□知る　どのような言葉から、人物の気持ちをたしかめましたか。

□読む　話し合う前と後とで、物語や人物に対する考えはどう変わりましたか。

□つなぐ　人物の気持ちの変化について考えるためには、何に着目するとよいですか。

情景

●情景。人物の気持ちが表れている、風景や場面の様子。

163ページ

結末

●変わる。

1 ノートの例

場面	「ごん」が「兵十」にしたこと	そのときの「ごん」の気持ち
ー 村の小川	兵十のとった魚やうなぎにいたずらをした。	ちょっと、いたずらがしたくなった。

2 情景や、場面の様子がよく分かる表現

- 空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました。（13ページ6行目）
- 青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。（29ページ9行目）

など

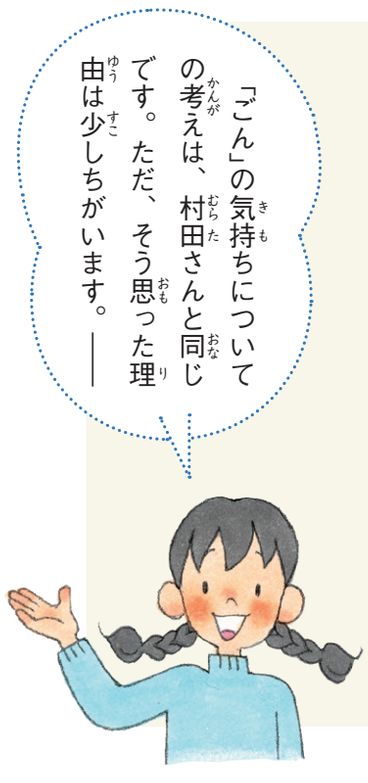
3 テーマの例

- 「ごん」や「兵十」はどんな人物か。
- 「ごん」のつぐないの気持ちは、「兵十」にとどいたのだろうか。
- 物語の結末についてどう思うか。

など

4 話し合うときに気をつけること

- 文章の、どの表現からそう考えたのかを言う。
- 自分の考えとくらべながら、友達の発言を聞く。



たいせつ

人物や物語に対する考えを深める

- 行動や気持ちを表す言葉とともに、情景からも、登場人物の気持ちを想像する。
- 場面と場面を、結びつけたりくらべたりして、気持ちの変化をとらえる。
- 他の人の考えや、自分とはちがう見方を知ると、物語に対する考えを深めることができる。

いかそう

物語を読むときには、情景のえがかれ方から、人物の気持ちを想像しましょう。

この本、読もう

新美南吉さんは、一九一三年、愛知県に生まれました。二十九さいというわかさでなくなりましたが、「ごんぎつね」の他にも、多くの童話をのこしました。それらは、百年近くたった今も、読みつがれています。

その中のいくつかを、書きだしの部分とともにしょうかいします。えがかれている情景や場面の様子を味わいながら、読んでみましょう。

手ぶくろを買いに

子どものきつねは、手ぶくろを買いに町まで来ました。はたして手ぶくろは買えるのでしょうか。

「寒い冬が北方から、きつねの親子のすんでいる森へもやって来ました。」

がちょうのたんじょうび

たん生祝いによばれたいたちは、ついにきぜつしてしまいました。何が起こったのでしょう。

「あるお百姓家のうら庭に、あひるや、がちょうや、モルモットや、うさぎや、いたちなどがすんでおりました。」

木の祭り

木は、美しい花をさかせましたが、だれも見てくれずさびしそう。ちょうは、木のために祭りをすることに。

「木に白い美しい花がいっぱいさきました。」

でんでんむしのかなしみ

だれもが悲しみをせおって生きていると気がついたでんでんむしに、あなたは何と言ってあげますか。

「一ぴきのでんでんむしがありました。ある日、そのでんでんむしは大変なことに気がつきました。」

変（へン）かわる・かえる　種（シュ）たね　続（ゾク）つづく・つづける　折（セツ）おる・おり・おれる　積（セキ）つむ・つもる

差（サ）さす　念（ネン）　連（レン）つらなる・つらねる・つれる　景（ケイ）　末（マツ）すえ

飯（ハン）めし　松（ショウ）まつ　不（フ）（ブ）　議（ギ）

157ページ

季節の言葉3

秋の楽しみ

行事は、ちいきによって行い方や時期がちがいます。あなたには、楽しみにしている秋の行事がありますか。好きな行事の楽しさを知らせる手紙を書いてみましょう。

九月 長月

◆お月見

中秋の名月
十五夜（昔のこよみで、八月十五日の夜）の月。

いも名月

後の月

豆名月

くり名月
十三夜（昔のこよみで、九月十三日の夜）の月。

たまくしげ箱根の山に夜もすがら
薄をてらす月のさやけさ
斎藤 茂吉

秋の七草

お元気ですか。十五日から秋祭りが始まります。たくさんのだしが出て、見ごたえがあるので、ぜひ見に来てください。
十月二日
木村りょう
おじいちゃんへ

十月 神無月

◆もみじがり

紅葉

黄葉

色づく

山よそおう

ちはやぶる神代も聞かず竜田川
から紅に水くくるとは
在原 業平

カエデ

イチョウ

ハゼ

十一月 霜月

◆七五三（十五日）

ちとせあめ

話す・聞く

役わりをいしきしながら話し合おう

クラスみんなで決めるには

話し合いがうまくいかなくて、こまったことはありませんか。ここでは、司会や記録係などの役わりにおうじた、よりよい話し合いの進め方について考えましょう。そして、多くの人がなっとくできるけつろんを目ざして、話し合いましょう。

これから話し合いを始めます。
まず、今日の目的と議題、進め方について、みんなでたしかめます。

● たしかめよう

「四年上までの学びをたしかめよう」 5ページ
「あなたなら、どう言う」 上118ページ

● 学習の進め方

決めよう集めよう ◀ じゅんびしよう ◀ 話そう聞こう ◀ つなげよう

1. 役わりを決め、目的と議題をたしかめる。
2. 話し合いのじゅんびをする。
3. クラス全体で話し合う。
4. 話し合いのしかたについて、気づいたことを伝え合う。

● ふりかえろう

1 役わりを決め、目的と議題をたしかめよう。

話し合いにおける役わりには、次のようなものがあります。みなさんも、役わりを決め、話し合うことをたしかめましょう。

- 司会グループ（司会・記録係・時間係）は、多くの参加者が発言できるようにし、出された意見を整理しながら進行する。
- 提案者は、議題について、理由とともに提案する。
- 参加者は、進行にそって、自分の立場や考えを発言する。

2 話し合いのじゅんびをしよう。

決められた時間内で話し合いを進めるために、司会グループは、前もって進行計画を立てておきましょう。参加者は、目的や議題におうじて、自分の考えをまとめておくようにします。

3 クラス全体で話し合おう。

38ページからの話し合いの様子から、気をつけるとよいことを考えましょう。そして、実際に話し合ってみましょう。

■ 議題の例

- 秋の読書週間に、クラスの中でどのような取り組みを行うか。
- 学習発表会に向けて、クラスのキャッチフレーズをどんなものにするか。

など

■ 進行計画の例

① 議題をたしかめる。（二分）
② 意見を出し合う。（八分）
③ どうやって決めるかを考える。（五分）
④ どれにするかを考える。（十五分）
⑤ まとめる。（二分）

今日は、――ということについて話し合いたいと思います。理由を説明します。

- 司会
- 記録係
- 参加者

議題 163ページ

議題をたしかめる

司会 北山

今日は、ちいきの学習でお世話になった坂さんたちへのお礼の会で、何をするかを決めます。初めに、何をしたいか、意見を出し合います。次に、どうやって決めるかを考え、その決め方にそって話し合います。

それでは、意見のある人は、手を挙げてください。――では、池田さん、小森さん、大木さんの順でおねがいします。

意見を出し合う

池田　はい。ぼくは、かんしゃじょうをわたしたいと思います。そうすれば、ぼくたちの気持ちを言葉にして伝えることができるからです。

小森　ぼくも、池田さんと同じように、かんしゃじょうがいいと思います。クラス全員でひと言ずつ書くといいのではないでしょうか。

大木　わたしは別の意見なのですが、学校農園で作っているさつまいもを、いっしょに食べるといいと思います。理由は、――。

どうやって決めるかを考える

司会　全部で五つの案が出ました。次に、この中からどうやって決めるかを考えます。考えがある人はいますか。――考えが出ないようなので、はんで相談する時間を二分取ります。――二分たちました。どうですか。――では、川上さん、黒田さんの順でおねがいします。

川上　はい。お礼の会まであと十日しかないので、じゅんびに時間がかからないものにしたほうがいいと思います。

黒田　ぼくは、かんしゃの気持ちが伝わるように、ぼくたちの心がこもっているものを選ぶといいと思います。

――他の人はどうですか。他になければ、じゅんびに時間がかからず、心がこもっているものを、話し合って決めましょう。

どれにするかを考える

司会　まず、それぞれの案について、分からないことがないかたしかめます。しつもんがある人は手を挙げてください。――はい、原田さん。

原田　「いっしょに遊ぶ」を提案した木村さんに、しつもんです。いっしょに遊ぶのは楽しいし、じゅんびに時間はかからないと思いますが、どんな遊びをしたら坂さんたちにかんしゃが伝わるでしょうか。

木村　そう言われると、いっしょに遊んでも、かんしゃの気持ちは伝わらないかもしれません。考えを変えます。この中では、――。

■黒板に記録する例

◎お礼の会で何をするか
- かんしゃじょう（全員ひと言ずつ書く）
  …気持ちを言葉で伝えられるから
- 学校農園のさつまいもを食べる
  …協力して育てた物だから
- いっしょに遊ぶ

◎どうやって決めるか
1 じゅんびに時間がかからないもの
2 心がこもっているもの

○挙げる
- 議題をたしかめ、話し合いの進め方をしめす。
- 何について意見をもとめるかをはっきりさせる。

- 指名されてから発言する。
- 考えとその理由を言う。
- 前の人の意見を受けているのか、ちがうことを話すのかを、発言の初めに言う。

- ところどころで、そこまでに出た意見をまとめる。
- 意見があまり出ないときは、少人数で相談したり、考えをノートに書いたりする時間を取る。
- できるだけ多くの発言が出るように、声をかける。

○協力
- たがいにしつもんし合うことで、意見のちがいや、目的に合っているかどうかを明らかにする。
- とちゅうで考えを変えてもよい。

どれにするかを考える

司会　話し合いの時間は、あと五分です。記録係の竹中さんが表にまとめてくれました。じゅんびに時間がかからず、心がこもっているものは、かんしゃじょうをわたすこととさつまいもを食べること、そして歌です。この中から、どれにするとよいでしょうか。

黒田　三つともするのは、どうでしょうか。この三つなら、じゅんびも大変ではないし、当日も、一時間あればできると思います。

司会　黒田さんの意見について、どう思いますか。はい、小森さん。

小森　はい。ぼくは、黒田さんの意見にさんせいです。ぼくたちのかんしゃの気持ちも、よく伝えられると思います。

…

まとめる

司会　それではみなさん、お礼の会では、この三つを行うということでいいでしょうか。いいと思う人は、手を挙げてください。

…

お礼の会では、かんしゃじょうをわたす、さつまいもを食べる、歌を歌う、の三つを行うことに決まりました。次の話し合いでは、当日の進め方や、どんな歌を歌うかを決めたいと思います。

■記録係が表で整理した例

何をするか	時間がかからない	心がこもっているか
かんしゃじょうをわたす	○	○全員がかんしゃの気持ちをひと言ずつ書く。
さつまいもを食べる	○	○みんなで協力して育てた物だから，心がこもっている。
いっしょに遊ぶ	○	△楽しいけれど，かんしゃの気持ちは伝わらない。
プレゼントを作る	△	○一人一人が作る。
歌を歌う	○	○心をこめて歌う。 ○一生けんめいに練習する。

「分ける・くらべる」9ページ

- さんせいや反対など、自分の立場をはっきりさせる。
- 最後に、決まったことや、さらに話し合うことをたしかめる。

議題や役わりを変えて何度か話し合うと、話し合いへのさまざまな関わり方を経験できます。

4 話し合いのしかたについて、気づいたことを伝え合おう。

自分たちの話し合いのしかたでよかったところや、次に気をつけたいことを伝え合いましょう。

- 司会グループの進め方
- 提案者や参加者の発言のしかた

ふりかえろう

□知る　みんなの意見を整理するとき、どんなことがいちばん大事だと思いましたか。

□話す・聞く　話し合いのしかたで、うまくできたことや、あまりできなかったことは何ですか。

□つなぐ　次の話し合いで、あなたが司会になったら、どんな進め方をしますか。

たいせつ

役わりをいしきしながら話し合う

〈司会グループの役わり〉

- 多くの参加者の意見が出るように、工夫して進行する。
- 出された意見や、どうやって決めるかなどを、黒板などで整理してしめす。

〈参加者の役わり〉

- 自分の立場を明らかにして、積極的に発言したりしつもんしたりする。

いかそう

学級会などで何かを決めるときには、役わりをいしきして話し合いましょう。

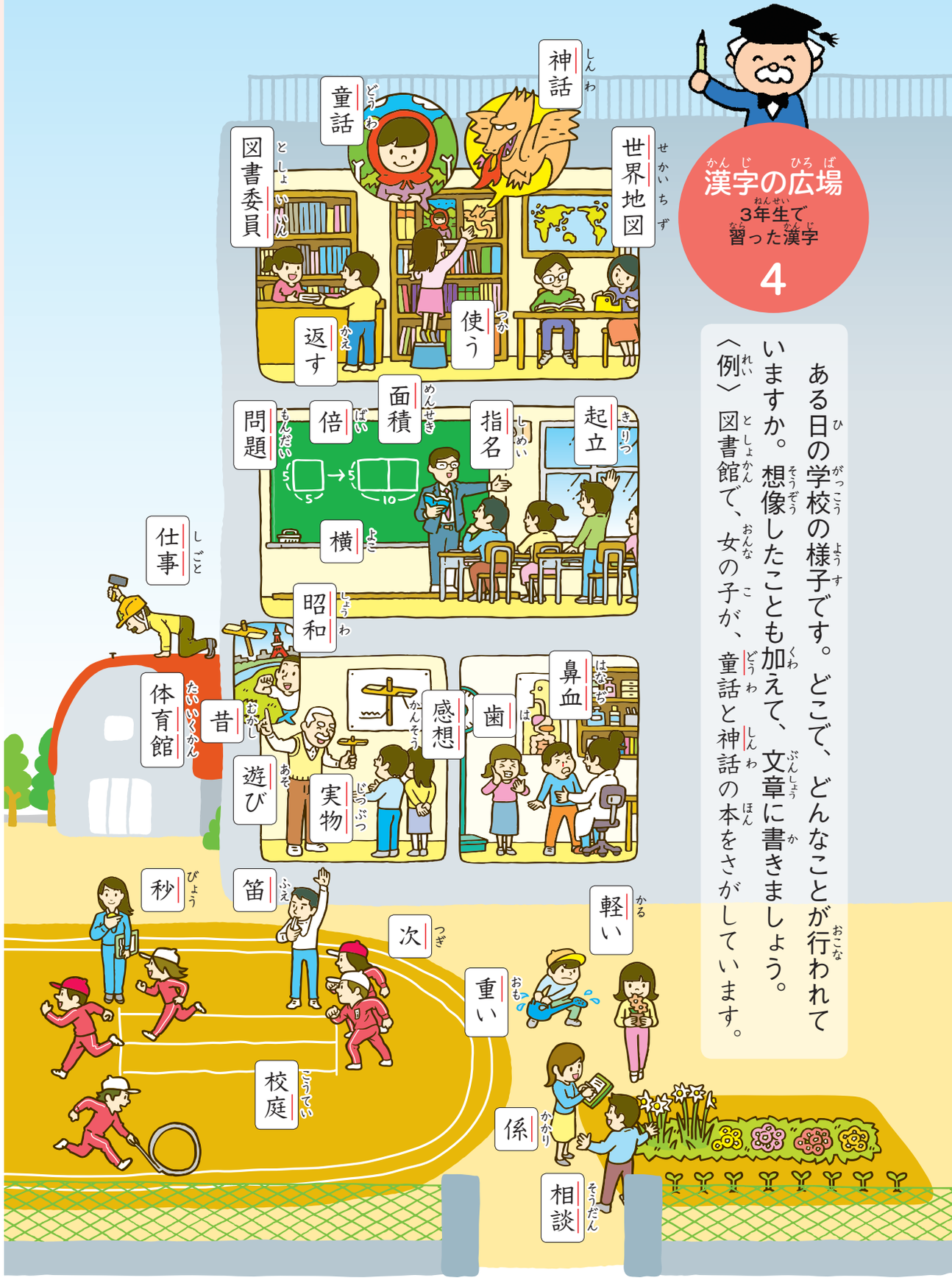
司録参加協験極

経験　積極的

157ページ

漢字の広場
3年生で習った漢字
4

ある日の学校の様子です。どこで、どんなことが行われていますか。想像したことも加えて、文章に書きましょう。
〈例〉図書館で、女の子が、童話と神話の本をさがしています。



2

世界にほこる和紙
伝統工芸のよさを伝えよう

読む　中心となる語や文を見つけて要約し、

書く　調べたことを書こう

じょうほう　百科事典での調べ方

日本には、さまざまな伝統工芸があります。その一つである和紙について、筆者はどのように考えているでしょうか。また、みなさんのちいきには、どんな伝統工芸がありますか。

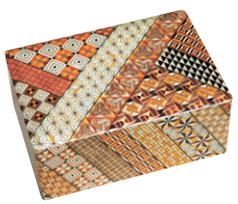
これまでの学習

- 筆者の考えをとらえる（思いやりのデザイン・アップとルーズで伝える）……上58ページ
- 事実を分かりやすく伝える（新聞を作ろう）……上95ページ

細川紙（埼玉県）

二風谷イタ（北海道）

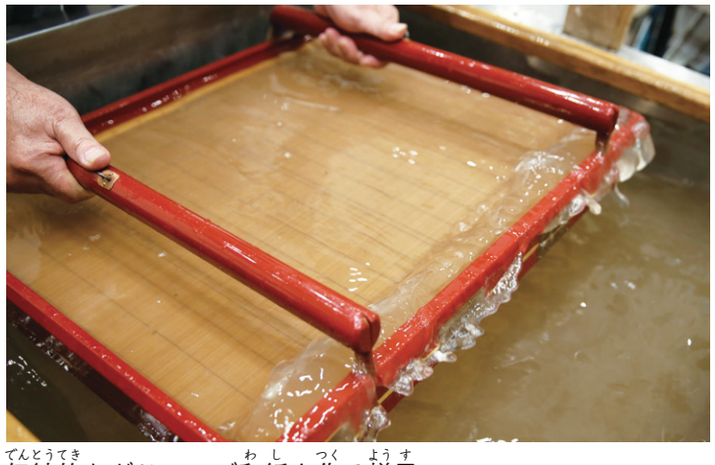
九谷焼（石川県）


寄木細工（神奈川県）

世界にほこる和紙

増田 勝彦

二〇一四年十一月二十六日、和紙を作る日本の伝統的なぎじゅつが、ユネスコの無形文化遺産に登録されました。紙は、せんいというとても細い糸のようなものでできています。植物から取り出したせんいを、人の手によって、ていねいにからませて作る日本のわざが、世界にみとめられたのです。日常生活では、機械で作られた洋紙とよばれる紙を使うことが多くなりましたが、日本には、このすばらしいぎじゅつによって作られた和紙もあるのです。



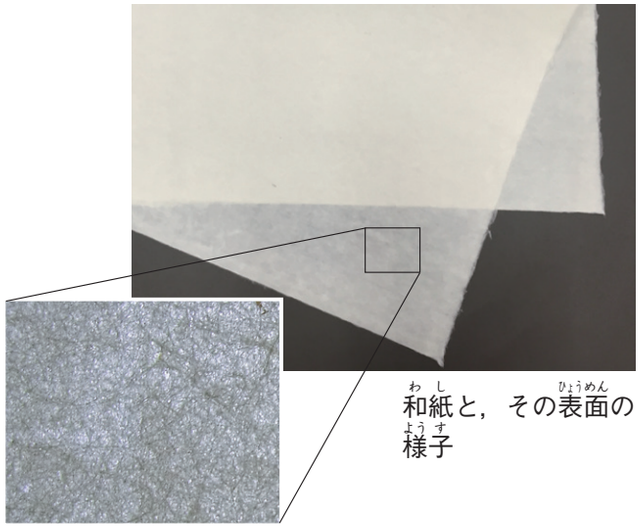
伝統的なぎじゅつで和紙を作る様子

伝統工芸。

無形。

無形文化遺産
ユネスコという国際機関によって登録される、世界的に価値のある無形の文化。伝統工芸や芸能などが対象となる。

機械。



和紙と，その表面の様子

わたしは、和紙のことをほこりに思っています。そして、より多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしいと考えています。なぜなら、和紙には洋紙にはないよさがあり、和紙を選んで使うことは、自分の気持ちを表す方法の一つだからです。

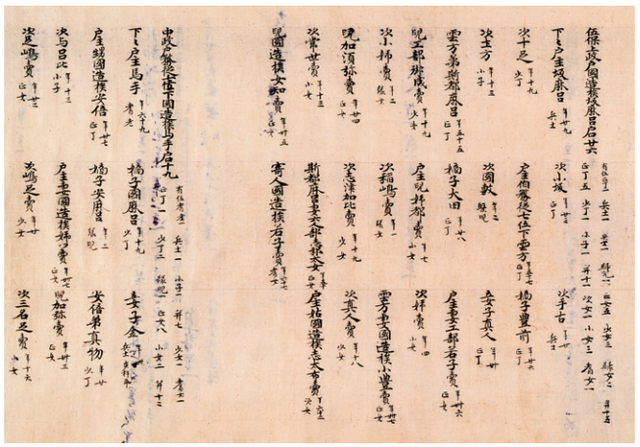
まず、和紙のよさについて考えてみましょう。和紙には、洋紙にくらべて、やぶれにくく、長もちするという二つのとくちょうがあります。

このようなちがいは、何によって生まれるのでしょうか。

紙のやぶれにくさは、せんいの長さのちがいが関係しています。紙は、そこにふくまれるせんいが長いほど、よりやぶれにくくなります。そして、洋紙と和紙をくらべると、和紙はとても長いせんいでできています。そのため、和紙は、洋紙よりもやぶれにくいのです。

紙が長もちするかどうかは、作り方のちがいによります。洋紙を作るときには、とても高い温度にしたり、多くの薬品を使ったりします。しかし、和紙を作るときには、洋紙ほど高い温度にすることはなく、薬品もあまり使いません。よりおだやかなかんきょうで作られている和紙は、時間がたっても紙の成分が変化しにくく、その結果、長もちするのです。

このような和紙のとくちょうは、国内外のさまざまな所で実感することができます。正倉院には、およそ千三百年前の和紙に書かれた文書が一万点以上ものこっています。それらは、げんざいでも、当時とあまり変わらない手ざわりで、当時と同じように文字を読むことができます。また、日本だけではなく、世界の博物館や美術館などで、古くからある絵画や手紙の修復に和紙が使われています。やぶれた所や、



正倉院に保管されている，702年に作られた文書

正倉院　奈良県の東大寺にある建物。古くから伝わる多くの宝物がしまってある。

○以上

○博物館

●絵画

いたんでしまった作品全体に和紙をはりつけることで、何百年もの間、作品を元のすがたのまま保管し、人々に見せることができるのです。

もう一つ、わたしが、より多くの人に和紙を使ってほしいと考えるのには、やぶれにくく、長もちするということ以外にも理由があります。かつては、ヨーロッパの国々でも、和紙とは原材料がことなるものの、さかんに人の手によって紙が作られていました。けれども、今では、そのような場所は、一か国に、一、二か所ぐらいしかのこっていません。いっぽう、日本には、人の手で和紙を作っている所が、今も、二百か所ほどあります。なぜ、日本には、和紙を作っている所がこんなにものこっているのでしょうか。それは、わたしたちが、和紙の風合いを美しいと感じ、自分の気持ちを表す方法の一つとして、和紙を選んで使ってきたからなのではないかと考えています。

作品のうら全体に和紙をはる様子

○保管

今からおよそ千年前の平安時代、短歌を書くときには、美しくかざられたきれいな和紙が使われていました。洋紙があるげんざいでも、手紙を書くための便せんを買いに行けば、和紙でできたものもならんでいて、受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて、それらを選ぶ人がいます。

わたしは、自分のことをしょうかいするめいしを和紙で作っています。かんたんにはやぶれない、長もちする和紙を使うことで、わたした相手との出会いを大切にしている気持ちを表しているのです。孫にお年玉をあげるときにも、和紙のふくろを使います。よりよろこんでもらいたいという思いから、ぬくもりのある美しい和紙を選ぶのです。

このように、和紙のもつよさと、使う紙を選ぶわたしたちの気持ちによって、長い間、和紙は作られ、さまざまなところで使われ続けてきたのだと、わたしは考えています。そして、和紙を作るぎじゅつは、世界にほこれる無形文化遺産になりました。みなさんは、今、洋紙だけでなく、和紙を選ぶこともできます。いつも同じものを使うのではなく、美しくかざりたいと思ったり、相手によろこんでもらいたいと考えたりして、紙を選ぶことは、とてもすてきなことです。みなさんも、世界にほこる和紙を、生活の中で使ってみませんか。

本願寺本三十六人家集（素性集）
平安時代に作られた短歌が書かれた本

平安時代
七九四年、平安京（今の京都府）に都が置かれてから、約四百年間の時代のこと。

○便せん

○孫

増田 勝彦
一九四二年、東京都生まれ。和紙について研究し、国内外で和紙について教えている。

見通しをもとう

中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

- 文章の組み立てをとらえ、中心となる語や文をたしかめて要約しましょう。
- 調べたことをもとに、自分の考えとその理由や例が伝わる文章を書きましょう。

とらえよう

● 文章全体の組み立てについて考えましょう。

- 筆者の考えが書かれている段落を見つけて、全体を「初め」「中」「終わり」に分けましょう。
- 筆者は、考えの理由となることを二つ挙げています。それぞれの理由が説明されている段落を考えて、「中」を二つのまとまりに分けましょう。

ふかめよう

● 筆者は、「中」でいくつかの例を挙げています。何を説明するために、どのような例を挙げているでしょうか。ノートにまとめましょう。

● 文章全体を要約しましょう。

- 「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文をたしかめましょう。
- 中心となる語や文を使って、「世界にほこる和紙」を二百字以内で要約しましょう。

「要約するとき」上86ページ

まとめよう

● 和紙以外にも、日本にはさまざまな伝統工芸があります。図書館などで本をさがして読み、伝統工芸のよさが書かれていると思う部分を中心に、内容を要約しましょう。

ひろげよう

● 要約した文章を友達と読み合い、次のことについて、感じたことを伝え合いましょう。

- 要約のしかたについて
- 伝統工芸のよさについて

1 ノートの例

何を説明するためか	例
・和紙はやぶれにくく、長もちすること。	・正倉院にのこっている和紙の例

2 まとまりごとに整理する例

まとまり	中心となる語や文
初め ①～②	・和紙 ・洋紙 ・より多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしい。

3 伝統工芸について書かれた本

伝統工芸

わくわく発見！ 日本の伝統工芸

竹でつくる

日本の職人 伝統のワザ ⑥工芸の職人

たいせつ 要約する

● まとまりごとに、中心となる語や文をたしかめる。

● 分量を考えて、元の文章の組み立てをいかしたり、自分の言葉を用いたりして、短くまとめる。

分量

じょうほう

調べるときに使おう 百科事典での調べ方

❶ 見出し語がのっている巻をさがす

百科事典で調べるときには、まず、調べたい事がらがのっている巻を見つけましょう。

ヒント 11 やゆよらりるれろわん

背からさがす

背には、その巻にのっている見出し語の、最初の文字がしるされています。

ヒント 12 索引

「さくいん」の巻からさがす

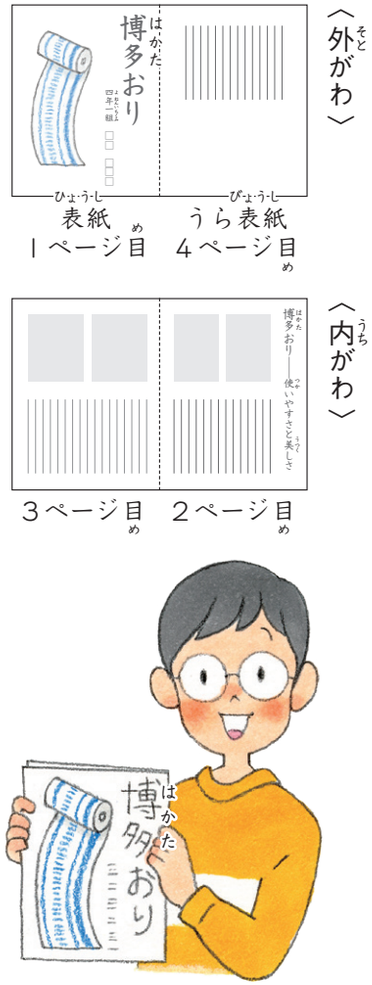
「さくいん」の巻には、全ての見出し語が五十音順にならべてあり、その見出し語がのっている巻・ページがしめされています。

❷ 見出し語がのっているページをさがす

百科事典は、国語辞典のように、見出し語が五十音順にならんでいます。「柱」や「つめ」を手がかりにして、ページをさがしましょう。

伝統工芸のよさを伝えよう

「世界にほこる和紙」は、和紙のみりょくについて、理由を挙げて書かれていました。ここでは、伝統工芸のよさについて調べ、理由や例とともにリーフレットにまとめ、友達に知らせましょう。



❶ 調べたい伝統工芸を決めよう。

身近なちいきにどんな伝統工芸があるかを調べ、きょうみをもったものを選びましょう。「世界にほこる和紙」の学習で読んだ本や、社会の学習をふり返ってもいいですね。

リーフレット
説明やせんでんなどを記した紙で、二つ折りていどのかんたんなもの。

●学習の進め方

1. 調べたい伝統工芸を決める。
2. くわしく調べて、整理する。
3. 組み立てと資料の使い方を考える。
4. 説明する文章を書く。
5. リーフレットを読み合う。

2 くわしく調べて、整理しよう。

選んだ伝統工芸についてくわしく調べ、分かったことを書き出します。調べるときには、下のように、目的におうじて必要な本や資料を使いましょう。

書き出したものを整理し、友達によさを伝えるのにふさわしい理由や例を考えましょう。

3 組み立てと資料の使い方を考えよう。

調べた伝統工芸のよさを説明する文章を、リーフレットの二ページ目と三ページ目にのせます。どうすれば分かりやすく説明できるかを考えましょう。

- どんな組み立てにするか。
- 写真や絵などをどのように使うか。

組み立てを考えたら、友達と読み合い、気づいたことを伝え合いましょう。

4 説明する文章を書こう。

考えた組み立てにそって、説明する文章を書きます。そのとき、理由や例を挙げているまとまりが読み手に伝わるように気をつけましょう。また、参考にした本などは、出典として文章の終わりにまとめましょう。

文章が書けたら、分かりにくいところがないかをたしかめます。表紙やうら表紙も作りましょう。

〈表紙〉 伝統工芸の名前、写真や絵。

〈うら表紙〉 伝統工芸をしょうかいするしせつのじょうほうなど、他に知らせたいこと。

■目的におうじた本や資料の選び方

- 調べたものについておおまかに知ったり、それに関わる他の事がらを調べたりするとき。

例：「博多おりはどんな伝統工芸か」。

「きぬおりものには、他にどんなものがあるか」。

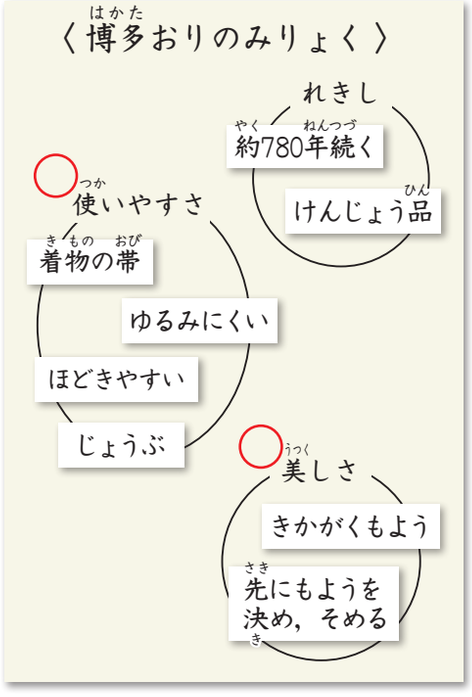
↓ さまざまな伝統工芸がのっている本、百科事典

- 調べたものについて、くわしく調べるとき。

例：「博多おりは、どうやって作られるか」。

↓ 調べたい伝統工芸の本やパンフレット、見学記録

■よさについてまとめた例



■組み立ての例

初め	中	終わり
博多おりの説明 博多おりには、さまざまなみりょくがある。	みりょく1「使いやすさ」について ・ゆるみにくく、ほどきやすい。（写真①） ・着物の帯に使われる。（写真②） ・ぶしが刀を差すときの帯にした。 みりょく2「美しさ」について ・先にもようを決め、糸をそめてから、おる。（写真③） ・細かいきかがくもよう。（写真④）	まとめ

参考
- **出典** 引用したり参考にしたりした本や資料のこと。 164ページ

博多おり――使いやすさと美しさ

博多おりは、福岡県で作られている、きぬおりものです。きぬおりものとは、かいこのまゆからとった糸で作るおりもので、全国で作られています。ここでは、博多おりのみりょくをしょうかいします。

その一つは、「使いやすさ」です。博多おりは、写真①のように、表面に波のようなでこぼこがあります。このつくりのために、結んだときにゆるみにくく、ほどきやすいのです。その使いやすさから、例えば、昔は、ぶしが刀を差すときの帯にしたそうです。今でも、着物の帯などによく使われています。（写真②）

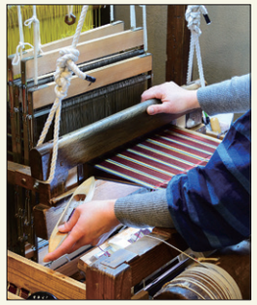
①表面の様子

②博多おりの帯

また、「美しさ」も博多おりのみりょくです。博多おりは、もようを先に決め、それに合わせて糸をそめて、おっていきます。（写真③）そのため、写真④のように、細かい図形がならんだ「きかがくもよう」の美しさを楽しむことができます。

このように、博多おりは、とてもみりょくのあるおり物なのです。

〈参考〉
島崎春子「博多おりの美しさ」ひかり社、二〇二〇年
「博多おりパンフレット」博多工芸館、二〇一八年
「小学百科事典」林図書、二〇一七年



③おる様子

④きかがくもよう

たいせつ

理由や例を挙げて考えを伝える

- 伝えたいことを考えて、調べたことを整理する。
- 理由や例と、伝えたいこととの関わりが分かるように書く。

いかそう

理由や例を挙げて説明するときには、伝えたいこととの関わりをはっきりさせましょう。

5 リーフレットを読み合おう。

友達と読み合い、分かりやすく書けているところを伝え合いましょう。

ふりかえろう

- □ 知る
- □ 読む
- □ 書く
- □ つなぐ

どんなことに気をつけて、資料を使ったり整理したりしましたか。

どの言葉や文に注意して、文章を短くまとめましたか。

理由や例を挙げるとき、どんなことに気をつけましたか。

何かのよさを伝えるときには、どんなことに気をつけたいですか。

「例えば」という言葉が使ってあるから、例が挙げられていることが分かるね。

158ページ

芸 無 械 以 博 管 便 孫 量

伝わる言葉

慣用句

「羽をのばす」という言葉は、ここでは、自由にのびのびするという意味で使われています。

このように、いくつかの言葉が組み合わさって、新しい意味をもつようになった決まり文句を、慣用句といいます。

慣用句には、体や心に関する言葉、動物や植物に関する言葉をふくむものがたくさんあります。また、かたかなで書く言葉が入ったものもあります。次の慣用句の意味を、国語辞典などを使って調べてみましょう。

- **体や心**　頭をひねる　心がおどる
- **動物**　借りてきたねこ　馬が合う
- **植物**　うり二つ　実を結ぶ
- **かたかな**　エンジンがかかる　メスを入れる

うま【馬】 名 顔や首が長く、たてがみがあり、力が強くて走るのが速い動物。
▼**馬が合う** 句 おたがいの気持ちがしっくりいく。気が合う。例 君とぼくは馬が合う。

国語辞典を作る人になったつもりで、下の慣用句の例文を作りましょう。

① 慣用句の意味を調べ、例文を作る。
② 友達とこうかんして、慣用句の使い方が正しいかをたしかめ合う。

- 仲を取りもつ
- えりを正す
- 底が浅い
- 水に流す
- 世話を焼く

借りる　仲　底　浅い　焼く

慣用句の中には、時代に合わなくなったものや、使い方によって相手をいやな気持ちにさせるものもあります。気をつけて使いましょう。

158ページ

声に出して楽しもう

短歌・俳句に親しもう（二）

声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。作品に表された風景を想像してみましょう。

晴れし空仰げばいつも
口笛を吹きたくなりて
吹きてあそびき

石川　啄木

晴れた空を見上げると、いつも口笛を吹きたくなって、それを吹いて遊んでいた。

金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日の岡に

与謝野　晶子

金色にかがやく小さな鳥のような形をして、銀杏の葉が散っている。夕日の差す岡の上に。

- 金色

ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

佐佐木　信綱

秋も終わりのころの大和の国（今の奈良県）にある薬師寺。その塔を見上げると、すんだ空に一片の雲がうかんでいる。

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

正岡　子規

柿を食べていると、ちょうどそのとき、鐘の音がひびいてきた。ああ、法隆寺の鐘だ。

桐一葉日当たりながら落ちにけり

高浜　虚子

桐の葉が一まい、秋の日の光に照らされながら、落ちた。

外にも出よ触るるばかりに春の月

中村　汀女

外に出てごらんなさい。手をのばせばさわれそうな、大きな春の月が出ているよ。

漢字の広場
3年生で習った漢字
5

休日の様子です。絵の中の言葉を使って、どこで、どんな人が、何をしているのかを書きましょう。

〈例〉二階では、お兄さんが、漢字の勉強をしています。

読む

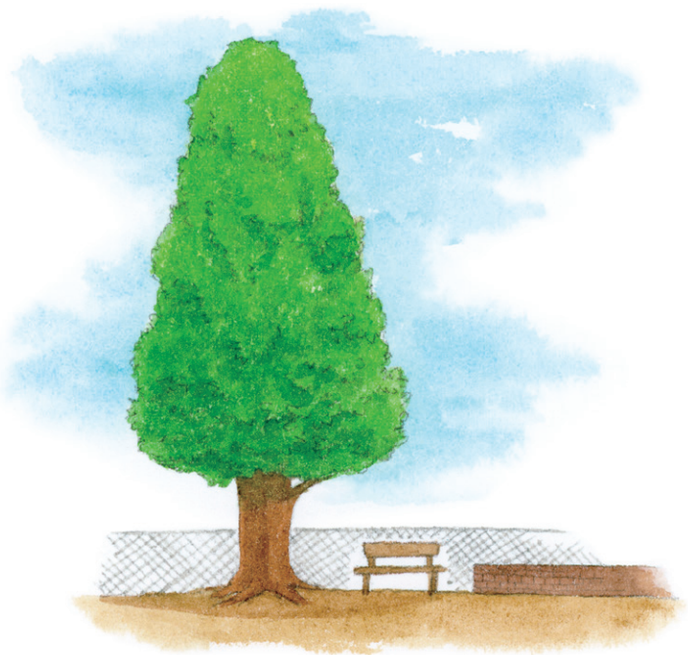
登場人物の変化を中心に読み、物語をしょうかいしよう

3 プラタナスの木

この物語に出てくる「マーちん」たちは、みなさんと同じ四年生です。「マーちん」たちは、だれと出会い、どのように変わっていくのでしょうか。

これまでの学習

- 場面と場面のつながりを考える（白いぼうし）……上28ページ
- 人物や物語に対する考えを深める（ごんぎつね）……32ページ



プラタナスの木

椎名誠 作
中島梨絵 絵

マーちんといつも遊んでいる仲間は、せいの高い花島君とハイソックスが好きなクニスケ。それに、アラマちゃんだ。本当は荒井さんというのだけれど、口ぐせが「あらま。」だから、いつのまにか、そうよばれるようになった。四年生になって、クラスは別々になったけれど、それまではずっと同じクラスで、家も近かったからいまだに仲よしだ。

マーちんたちが集まるところは川ぞいの公園で、バスケットコートぐらいの広さしかない。公園は、何も植えられていない花だんでかこまれていて、古

い大きなプラタナスの木が一本だけ生えているので、プラタナス公園とよばれている。中学生や幼児連れの母親などはめったに来ないから、マーちんたちは、自分たちの遊びができた。水飲み場があるのも助かるけれど、何よりうれしいのは、この公園では、時間によってボール遊びができることだった。他の公園では、ボール遊びは禁止なのだ。

最近熱中しているのは、サッカー。リーダーはクニスケだ。クニスケは、サッカーをするときには、ハイソックスの中にすね当てを入れる。本格的なのだ。二人がゴールキーパーと守りになり、二人がドリブルやパスをしてせめる。花だんと花だんの間に二メートルぐらいの空間があって、そこがゴールだ。

つゆ明けのころからだろうか、プラタナスの木の下にある、古い小さなベンチにおじいさんがやって来て、にこにこしながら、マーちんたちのサッカーをながめているようになった。

試合が白熱してくると、ときどきパスやドリブルのコースが外れて、プラタナ

禁止

白熱

スの木の下にボールが転がっていくことがある。そういうとき、おじいさんは、こしをかがめてボールを大切そうにつかみ、そのままじっとしている。

「こうしていないと、どっちかが有利になってしまうかもしれないからね」。

おじいさんは、そう言って笑う。

そのうちに、マーちんたちとおじいさんはだんだん親しくなり、サッカーにつかれると、みんなプラタナスの木の下に集まって、おじいさんと話をするようになった。おじいさんが「みんな水をもっとたくさん飲んで、少し日かげに入って休まないと熱中症になるよ」。と言ったのがきっかけだった。太陽の光が夏に向かってずんずん強くなり、大きな葉のプラタナスの木の下が、とてもよい日かげになるのだ。

おじいさんの話はいつもおもしろかった。

ある日、おじいさんは不思議なことを言った。

「このプラタナスの木が、さか立ちしているところを考えたことがあるかい。」

「あらま。木がさか立ち」。

有利。笑う。

アラマちゃんが、いつものようにおどろいた。

「そう。この木がさか立ちするだろう。すると、木のみきや枝葉と同じぐらいの大きさの根が出てくるんだよ。木というのは、上に生えている枝や葉をささえるために、土の中でそれと同じぐらい大きな根が広がって、水分や養分を送っているんだ」。

「どの木もみんなそうなんですか。」

今度は、花島君がマーちんの頭ごしにきいた。

「たいていの木は、大きな根が地面の下にぎっしり広がっているのさ。だから、このプラタナスの木が公園全体を守っている、といってもいいくらいだ。もし、地上のみきや枝葉がなくなったら、根は水分や養分を送れなくてこまってしまうんだ。」

マーちんと花島君とクニスケは「ふうん」。と同じ

ような声を出したが、アラマちゃんはやっぱり「あらま。」と言った。
それにしても、木の根がこまってしまうなんて、初めて聞く話だ。おじいさんの話を聞いていると、おじいさんは、公園のできるずっと前からプラタナスのことを知っているみたいだ。

夏休みに入るとすぐ、花島君とクニスケはお母さんのふるさとに帰省し、アラマちゃんは、家族と海外旅行に出かけてしまった。一人残ったマーちんがプラタナス公園に行くと、いつものようにおじいさんがやって来て、ベンチにすわった。マーちんは、自分ももうすぐお父さんのふるさとに行くので、夏休みが終わったら、またみんなで来るから、と言った。
「お父さんのふるさとには、木がいっぱいあるだろう。みんなによろしく。」
おじいさんは、にっこり笑った。
夏休みも半ばというころ、マーちんは、祖父母の家にいた。家の周りには森が広がっている。森にはいろいろな木や草が生え、鳥やせみの声が満ちていた。森と

帰省
残る
半ば
祖父母
周り

森の間には小川が流れ、小さな魚が、ときどき白いはらを見せてきらりと光った。
マーちんは、この森の中で毎日走り回って遊んだ。
マーちんが祖父母の家に来て一週間ほどたったある日、大きな台風が森をおそった。森はおこったようにゆれ、小川は濁流となってあばれた。鳥やせみも、どこかにすがたを消した。テレビは、今年いちばんの強い台風だと伝えている。早々とふとんに入ったマーちんは、ゴーゴー鳴りひびく台風の音を聞きながら、プラタナス公園のおじいさんの顔を思いうかべた。最初ははっきりしていたおじいさんのえがおが、しだいにぼんやりとしていく。マーちんは、いつしか深いねむりに落ちていった。
一夜明けると、台風は通りすぎていた。青く晴れ上がった空の下で、あんなにゆれていた森は、今は静かに太陽の光を受けてぴかぴかかがやいている。小川はまだ濁流のままだったけれど、鳥やせみはうれしそうに鳴き始めている。マーちんは、おじいさんの言葉を思い出した。森の一本一本の木の下には、それと同じぐらい大きな根が広がっている。マーちんには、なぜか今、それがはっきりと

台風
今年

見えるような気がする。だから、強い風がふいても木はかんたんにはたおれたりしないし、森もくずれたりしないのだ。一本一本の木とその根が、ずっと昔から

森全体を守り、祖父母の家だって守ってきたのだ。

長い夏休みが終わり、新学期が始まった。

プラタナス公園の異変を最初に知らせてくれたのは、ハイソックスをずり落としながら走ってきたクニスケだった。プラタナスの木がなくなっている、というのだ。放課後、四人はプラタナス公園に走った。

本当だった。マーちんが、お父さんのふるさとで台風にあっていたころ、当然だけれど、この公園も台風におそわれていたのだ。近所の人に聞くと、プラタナスがたおれかかってきけんだったのだという。マーちんたちがいない間に、大きなプラタナスは切りかぶだけを残して消えてしまっていた。その横には、強い日を浴びて、ベンチがぽつんと置かれている。

公園は、立ち入り禁止になっていた。

「根は、ほられてはいないみたいだ。でも残った根っこはきっとこまっているんだろうね。」

放課後。
当然。
浴びる。

花島君が、かたを落として言った。アラマちゃんは、いつもの口ぐせを言わずにだまっている。

立ち入り禁止がとけて、また、マーちんたちは、公園に遊びに行くようになった。木が切られてから、おじいさんは公園にすがたを見せなくなっていた。サッカーも前ほど白熱しなくなり、マーちんたちは、おじいさんがいつもすわっていた、日かげのなくなったベンチにだまってすわりこんだ。だまっているけれど、みんなが何を考えているかは分かる。

そんなある日、ベンチにすわっていたマーちんは、思いついたように、プラタナスの切りかぶの上に立ってみた。今でも地下に広がっている根のことを想像していたら、そうしたい気持ちになったのだ。

花島君が不思議そうに見ていたので、

「おいでよ。なんだか、根にささえられているみたいだよ。」

と言うと、花島君だけではなく、クニスケもアラマちゃんも切りかぶに乗ってきた。

せいの高い花島君を真ん中にして、両手を広げてプラタナスの切りかぶに乗っていると、みんなが木のみきや枝になったみたいだ。

プラタナスは切りかぶだけになったけれど、ぼくたちのプラタナス公園は変わらない。春になれば、プラタナスも芽を出すだろう。そうすれば、きっとまた、おじいさんにも会える。それまでは、ぼくたちがみきや枝や葉っぱの代わりだ。

そう思いながら、マーちんは大きく息をすって、青い空を見上げた。

芽。

椎名 誠

一九四四年、東京都生まれ。作家、映画かんとく。「岳物語」「大きな約束」などの作品がある。

見通しをもとう

登場人物の変化を中心に読み、物語をしょうかいしよう

- 登場人物の気持ちが想像できる言葉に着目しましょう。
- 登場人物の変化とそのきっかけについて、考えながら読みましょう。

とらえよう

●「プラタナスの木」は、一行空きで五つの場面に分かれています。言葉や表現に気をつけながら読み、それぞれの場面の様子や出来事をたしかめましょう。 1

ふかめよう

●物語の最初と最後で、「マーちん」はどう変わりましたか。それは、どの言葉や表現から分かりますか。

・プラタナスの木への思い　・ものの見方や考え方

●「マーちん」が変わるきっかけとなった出来事は、何だと思いますか。それがきっかけだと考える理由とともに、友達と話しましょう。

●最後の場面で、「マーちん」は、どんなことを感じていたと思いますか。想像して、友達と話しましょう。 2

●「マーちん」たちは、また、「おじいさん」に会えると思いますか。理由とともに話しましょう。

まとめよう

●「プラタナスの木」という物語のみりょくは、何だと思いますか。ノートにまとめましょう。

ひろげよう

●登場人物の変化を中心に、「プラタナスの木」のみりょくをしょうかいする文章を書きましょう。友達と読み合って、「いいな。」と思ったところや、まねしてみたいところを見つけましょう。 3

1 ノートの例

場面	様子や出来事
一	・最近、マーちんたちは、プラタナス公園でサッカーに熱中している。

2 考えを伝え合うときの言い方の例

「マーちん」は、「おじいさん」がすわっていたベンチにすわりこんでいたとき、――と考えていたんじゃないかな。だから、プラタナスの切りかぶの上に立ったときには、――と感じたと思うよ。

3 しょうかいする文章の例

「プラタナスの木」という物語には、「マーちん」という人物が出てきます。最初は、――だった「マーちん」は、――や――という出来事を通して――。

最後まで読むと、――な気持ちになります。ぜひ読んでみてください。

ふりかえろう

□ 知る　登場人物の気持ちは、どんな言葉や表現に表れていましたか。

□ 読む　「マーちん」の気持ちや考え方は、何をきっかけに、どう変わりましたか。

□ つなぐ　物語のみりょくをしょうかいするときには、どんなことに気をつけたいですか。

たいせつ

登場人物の変化と、出来事の関係をとらえる

- 場面のうつり変わりに気をつけて読み、登場人物の気持ちや考え方が表れている部分を見つける。
- それらを結びつけたり関係づけたりして、どう変化したのかを想像する。
- 人物の変化に、どんな出来事がどのように関わっているのかを考える。

いかそう

自分と同じくらいの年の人物が出てくる物語を読むときには、人物の変化を、自分と照らし合わせながら読みましょう。

この本、読もう

みなさんと同じくらいの年の人物が出てくる物語です。どれを読んでみたいですか。

雨やどりはすべり台の下で

みんなの不思議な思い出話の中に、必ず出てくる人――雨森さんは、もしかしたらまほう使いかもしれません。

雨ふる本屋

ルウ子が入った雨ふる本屋には、わすれられた物語の種が、「ゆめの力」で本になるのを待っています。

百まいのドレス

いつも同じ服を着ているワンダは、家には百まいのドレスがあると言いますが、だれも信じてくれません。

利笑省残周課然浴芽

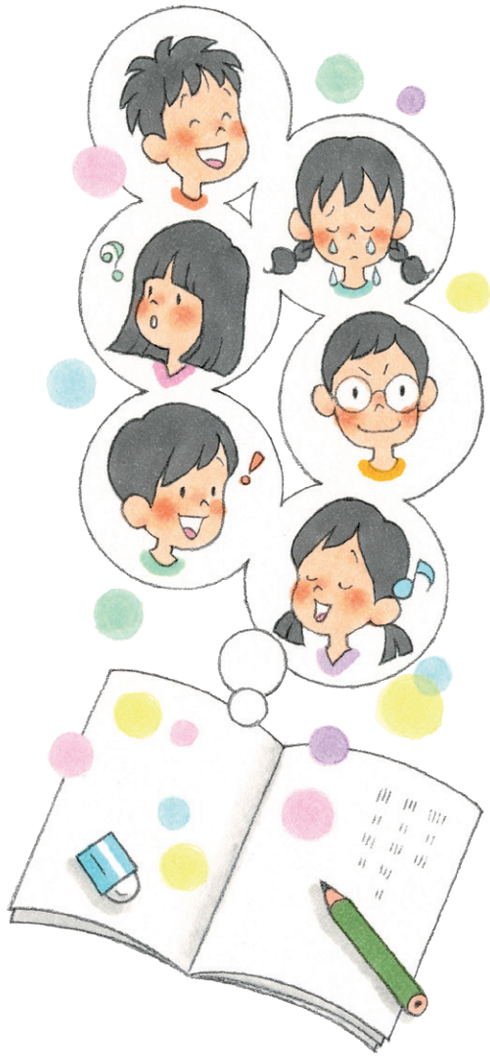
158ページ

書く

心の動きを言葉にして、詩を書こう

感動を言葉に

毎日の生活の中での出会いや発見、感動を、詩にしてみましょう。詩は、短い文で、そのときの思いを言葉にしたものです。短いからこそ、伝えたいことをよりすぐり、表現を工夫しましょう。



たしかめよう

「四年上までの学びをたしかめよう」6ページ

学習の進め方

決めよう集めよう ▶ 組み立てよう ▶ 書こう ▶ つなげよう

1. 詩に書きたいことを決める。
2. 詩の組み立てを考える。
3. 言葉を選んで、詩を書く。
4. 友達の詩の工夫を見つける。

ふりかえろう

1 詩に書きたいことを決めよう。

あなたは最近、何に心を動かされましたか。思い出して、詩に書きたいことを選びましょう。

■題材の例

- 考えたこと
- 見たこと
- くやしかったこと
- 思ったこと
- 聞こえたこと
- がんばっていること
- したこと
- うれしかったこと

2 詩の組み立てを考えよう。

詩は、ふつうの文章とはちがう改行のしかたをしていたり、連に分けて書かれたりします。また、一行だけの詩もあります。選んだ題材を、どのような詩にしたいか、考えてみましょう。

3 言葉を選んで、詩を書こう。

心を動かされたときのことを、言葉や短い文でたくさん書き出しましょう。その中から、あなたの気持ちが伝わる言葉を選んだり、言葉と言葉を組み合わせたり、言葉の順序を入れかえたりして、整えていきます。

詩でよく使われる、次のような書き方も、使ってみましょう。

- あるものを、他のものにたとえる。
- 同じ言葉や文をくり返して、調子を整える。
- 様子を表す言葉を使う。

書いたら読み返して、心が動かされたときのことが伝わる表現になっているかをたしかめましょう。

▼どんな工夫があるか、考えてみましょう。

ニンジン

おふろあがり

まど・みちお

およぐ

谷川 俊太郎

みずがいやだって　ぼくないた
そしたら　めから　なみだがでてきた
へんだな　ぼくのなかにも
みずがある

みずがこわいって　ぼくないた
そしたら　のどが　かわいてきて——
へんだな　みずが
のみたくなっちゃった

——改行。

4 友達の詩の工夫を見つけよう。

詩を読み合い、書き方の工夫を伝え合いましょう。

ふりかえろう

- □ 知る　心の動きを表すときに、どんな言葉や表現を使いましたか。
- □ 書く　詩を書いた後、どんなことに気をつけて読み返しましたか。
- □ つなぐ　友達の詩で、「こんな工夫をしてみたい。」と思うものはありましたか。

たいせつ

読み返して、書いたものを整える

- 自分の思いが読む人にも伝わるかを考える。
- 他の言葉や言い方がないかを考える。
- 言葉の順序や調子を変えると、作品の印象が変わることがある。

いかそう

詩や物語を書くときだけでなく、手紙など、気持ちを伝える文章を書くときにもいかしましょう。

改 カイ あらためる あらたまる

159ページ

季節の言葉 4

冬の楽しみ

行事は、ちいきによって行い方や時期がちがいます。あなたのちいきの冬の行事に関する言葉を入れた、かるたを作りましょう。クラスやグループでかるた取りを楽しんでもいいですね。

十二月 師走

◆正月事始め（十三日）

正月に向けたじゅんびを始める日。

もちつき

大そうじ

すすはらい

◆冬至（二十二日ごろ）

一年で最も昼の時間が短い日。

かぼちゃ

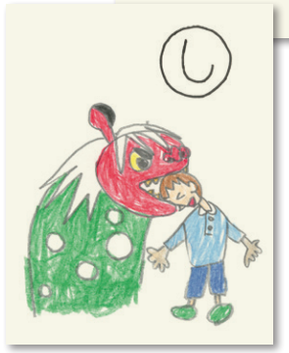
ゆず湯

◆大みそか（三十一日）

年こしそば

じょやのかね

しまいだ
頭かまれて
元気な一年



●冬至

一月 睦月

◆お正月

元旦
新春
初日の出
初ゆめ

おせち

ぞうに

ぞうには、ちいきによって、味つけやもちの形、具がちがいます。

◆七草がゆ（七日）

春の七草

せり
なずな
ごぎょう
はこべら
ほとけのざ
すずな
すずしろ

二月 如月

◆節分（三日ごろ）

豆まき

福は内

おには外

わがこゑののこれる耳や福は内

飯田 蛇笏

詩の楽しみ方を見つけよう

自分だけの詩集を作ろう

三つの「月」の詩を、読み味わいましょう。言葉の使い方や書き方から、月のどんな様子が思いうかぶでしょうか。

まんげつ

みずかみ かずよ

でっかいつきだ
セメントこうばの　えんとつおして
のん　のん　のん　のん
ぼくのかたにのっかりそうだ

月

こやま 峰子

雲のうんだ　たまご

共通点

つき

谷川 俊太郎

つきに　いかないか
ぼくと　いっしょに
つきに　いかないか
おだんご　もって

つきに　いかないか
はらが　たつとき
つきに　いかないか
ちきゅうを　ながめに

5

▼次のようにして、自分だけの詩集を作りましょう。

① テーマを決めて、詩を集める。
- 「冬の詩」「食べ物の詩」など、取り上げている事がらに共通点があるものを集める。
- 同じ詩人の詩を集める。
- 言葉や書き方のおもしろい詩を集める。　など

② 集めた中から、のせる詩を決め、順番を考えてならべる。

③ 表紙や目次をつけて、本にする。

この詩を集めた理由を、最後のページに書こうかな。

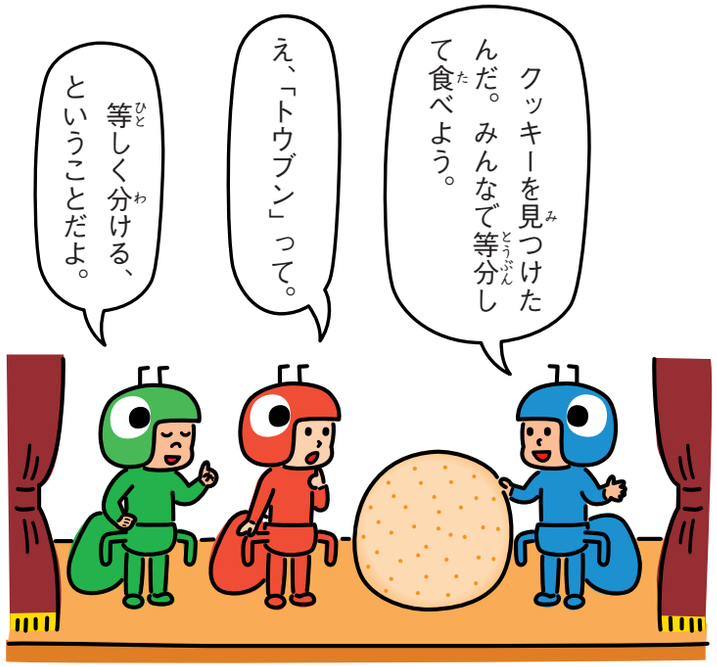
159ページ

5

言葉

熟語の意味

訓を手がかりにする



二字以上の漢字の組み合わせでできた言葉を、熟語といいます。熟語には、「等分」―「等しく分ける」のように、訓で読むと意味の分かるものがあります。

例えば、「改良（カイリョウ）」という熟語は、「改（あらためる）」と「良（よい）」の組み合わせで、「改めて良くする」という意味を表します。

1 訓を手がかりにして、次の熟語の意味を考えましょう。

- 木刀
- 無色
- 流星
- 竹林
- 同時
- 人力
- 深海
- 伝言

伝言　人力　竹林　流星　無色　木刀

漢字の組み合わせを手がかりにする

熟語には、次のような漢字の組み合わせでできたものがたくさんあります。

①にた意味をもつ漢字の組み合わせ

- 加入（加わる・入る）
- 願望（願う・望む）
- 消失（消える・失う）
- 周辺（周り・辺り）

②反対の意味をもつ漢字の組み合わせ

- 高低（高い・低い）
- 勝敗（勝つ・敗れる）
- 売買（売る・買う）
- 強弱（強い・弱い）

③上の漢字が、下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ

- 前進（前に進む）
- 老木（老いた木）
- 花束（花の束）
- 最多（最も多い）

④「―を」「―に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ

- 読書（書を読む）
- 開票（票を開く）
- 帰国（国に帰る）
- 着陸（陸に着く）

2 漢字の組み合わせを手がかりにして、次の熟語の意味を考えましょう。

- 明暗
- 白紙
- 岩石
- 消火
- 登山
- 軽重
- 運送
- 右折

願　失　辺　低　敗　老　束　票　陸

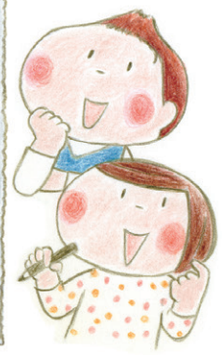
159ページ

右折　岩石　着陸　開票　花束　老木　売買　勝敗　高低　周辺　消失　願望

漢字の広場 3年生で習った漢字 6

絵の中の言葉を使いながら、一年間の出来事を、学級新聞の記事にしましょう。

〈例〉　新学期になり、四年生に進級した。始業式では、校長先生のお話をしっかり聞いた。



4 ウナギのなぞを追って

読む

きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう

身近な生き物のことでも、よく分かっていないことはたくさんあります。ウナギには、どんななぞがあるのでしょうか。

（寺越 慶司 絵）

これまでの学習

- 筆者の考えをとらえる（思いやりのデザイン・アップとルーズで伝える）……上58ページ
- 要約する（世界にほこる和紙）……51ページ

ウナギのなぞを追って

塚本 勝巳

今年もマリアナの海にやって来ました。日本から真南に二千キロメートル、周りに島一つ見えない海の真ん中です（図1）。毎年のようにここにやって来るのは、ウナギがどんな一生を送る生き物なのかを調査するためです。あざやかなぐんじょう色の海は、白い船体を青くそめてしまいそうです。

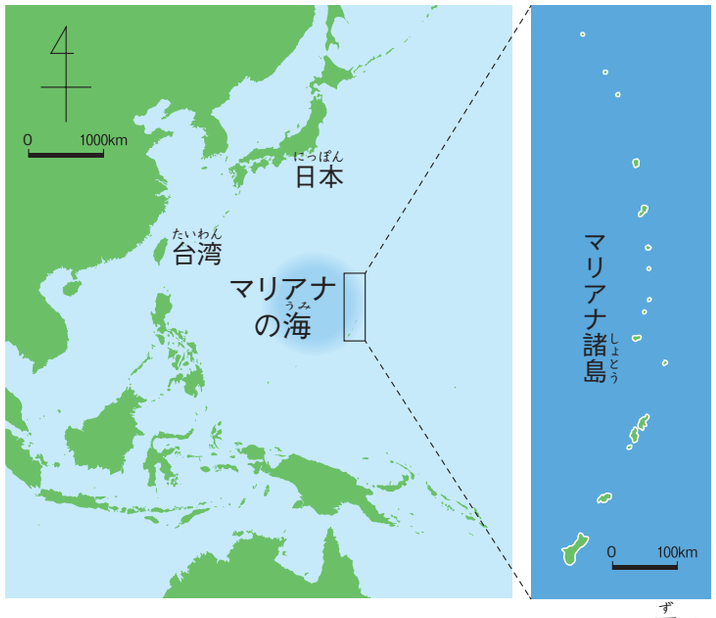
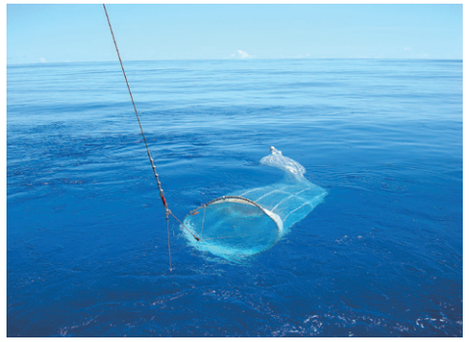


図1

ウナギ
ここでは、日本や中国、台湾、韓国に分布するウナギ（ニホンウナギ）を指す。



ウナギは、日本各地の川や池にすんでいます。それなのに、なぜ、はるか南の海にまで調査に来るのか、不思議に思う人もいるでしょう。実は、ここが、日本中のウナギが集まってきて、いっせいにたまごを産む場所なのです。ここで生まれたウナギの赤ちゃんは、海流に流され、しだいに成長しながら、はるばる日本にやって来ます。

ここがその場所だと分かったのは、つい最近のことです。それまでウナギの生態は深いなぞに包まれていたのです。その研究の第一歩として、たまごを産む場

各地。

産む。

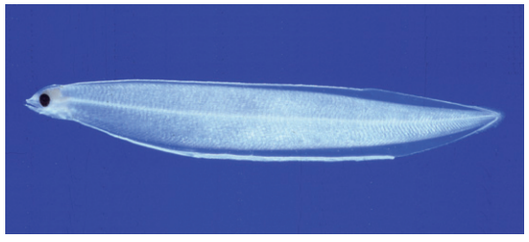
海流
決まった方向へ進む、海水の流れのこと。

所を見つける調査が始まったのは、一九三〇年ごろのことでした。それからこの場所がつき止められるまでに、実に八十年近くの年月がかかったのです。

たまごを産む場所をさがす調査は、より小さいウナギを追い求めることから始まりました。調査では、目の細かい大きなあみを使って、海の生き物を集める作業をくり返します。あみの中には、さまざまな色や形の小さな生き物が入ります。この中から、レプトセファルスとよばれる、ウナギの赤ちゃんをさがすのです。レプトセファルスは、とうめいで、やなぎの葉のような形をしています（図2）。海の中でしずみにくく、海流に乗って運ばれやすくなっているのです。

ウナギのレプトセファルスが最初にとれたのは、一九六七年、場所は、台湾の近くの海でした。体長は五十四ミリメートル。この大きさだと、生まれてからだいぶ時間がたっているため、かなりのきょりを海流で流されてきたものと思われ

図2



追い求める

レプトセファルス
ウナギなどが、親とちがう形をしているときのよび名。ウナギのレプトセファルスは、もう少し成長して形が変わると、「シラスウナギ」とよばれるようになる。

ました。このレプトセファルスが生まれた場所は、海流をもっとさかのぼった先にあると考えられました。

わたしがこの調査に加わるようになったのは、一九七三年のことです。調査グループは、さらに小さなレプトセファルスを求めて、調査のはんいを南へ、そして東へと広げていきました。レプトセファルスは、海流に乗って運ばれます。海流の上流に行くほど、小さいものがいるはずです。予想どおり、とれるレプトセファルスの体長は、四十、三十、二十ミリメートルと、しだいに小さくなっていきました（図3）。

そして、一九九一年には、マリアナ諸島の西、北赤道海流の中で、十ミリメートル前後のレプトセファルスを、約千びきとることができたのです。レプトセファルスの体の中には、木の年輪ににた、

図3

北赤道海流

一日に一本ずつふえる輪のできる部分があります。から何日たっているかを知ることができます。調べてみると、これらは生後二十日ほどのものだと分かりました。とれた所から、二十日分のきょりを計算して海流をさかのぼれば、親ウナギがたまごを産んだ場所にたどり着けるはずです。

一九九四年ごろ、わたしたちは、これまでの調査で分かったことを、もう一度整理しました。レプトセファルスがとれた場所を地図上に記し（図4）、とれたときの体長と合わせて考えていくと、あることに気がつきました。西向きに流れる北赤道海流をさかのぼって、東へ行くほど、とれるレプトセファルスは小さくなっています。しかし、ある地点をこえると、ぱったりととれなくなっているのです。海底の地形図でたしかめると、そこには、大きな三つの海山が、南北に

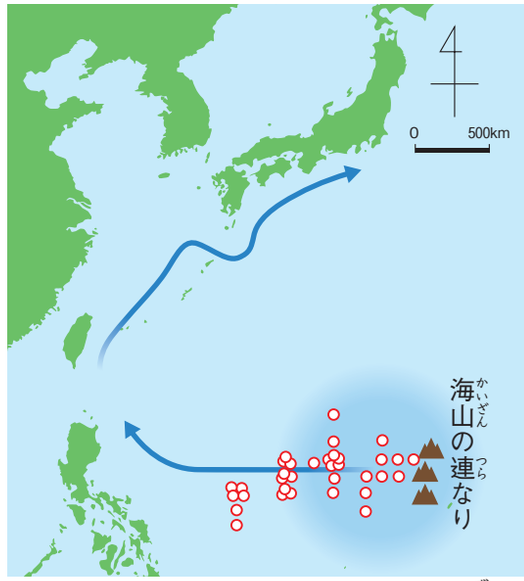


図4

5　10

海山
海中で、海の底から一〇〇〇メートル以上の高さでそびえる、山のような地形。多くは海底火山と考えられている。

●記す

連なっていました。親ウナギがたまごを産む場所を決めるときに、これらの海山が何かの役に立っているのかもしれない、わたしたちは、そう考えました。

それから、とれたレプトセファルスのたんじょう日を先ほどの輪の数から計算し、こよみと照らし合わせました。すると、多くのたんじょう日が、新月の日前後に集まっていることが分かりました（図5）。ウナギは、新月のころに合わせて、いっせいにたまごを産んでいるようなのです。

「海山の近く」「新月のころ」という二つの予想にもとづいて、わたしたちは調査を続けました。どういうわけか、たまごも、生まれてすぐのレプトセファルスもとれないことが、何年も続きました。しかし、二〇〇五年六月七日、新月の日、マリアナ諸島の西にある海山付近で体長五ミリメー

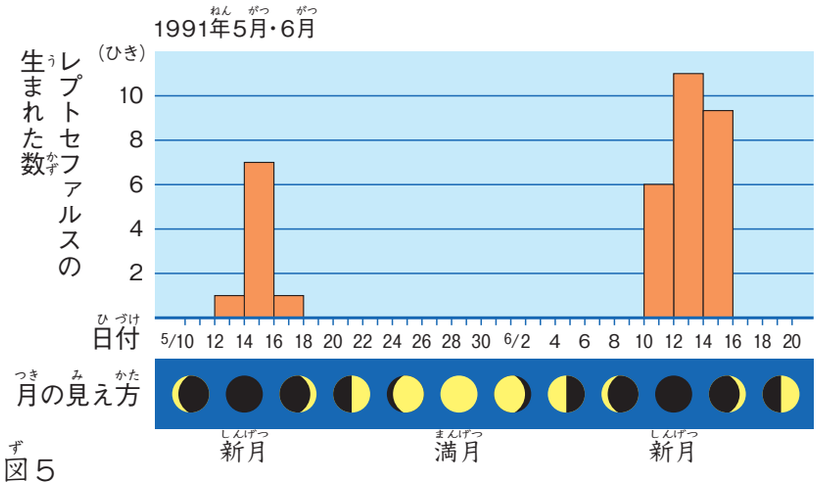


図5

5　10

新月
すっかり欠けて、全く見えなくなった月のこと。反対は満月。

○付近

トル、生後わずか二日の、ウナギのレプトセファルスを見つけることができました。確実にたまごに近づいていると、わたしたちの期待は高まりました。けれども、たまごは、レプトセファルスよりずっとせまいはんいに固まっているので、とるためには、さらに場所をしぼりこまなければなりません。

そこで、わたしたちは、フロントとよばれる、塩分のこさがことなる海水のさかい目に着目しました。生まれて間もないレプトセファルスは、これまでフロントのすぐ南側でとれていたからです（図6）。もしかしたら、親ウナギたちは、「新月のころ」に、「フロントと海山の連なりが交わる地点」でたまごを産むのかもしれない、そう考えて、わたしたちはさらに調査を続けました。

二〇〇九年五月二十二日、新月の二日前の明け方、ついにそのしゅんかんは、やって来ました。ウナギのたまごらしいものが二つとれたのです。大きさは、ほんの一・六ミリメートル。

図6

5

10

○固まる
○塩分
○南側

船内は、期待とこうふんに包まれました。船の研究室のモニターにうつし出されているたまごは、にじ色にかがやいていました。さらにくわしく調べてみると、これらはたしかにウナギのたまごにまちがいないことが分かりました（図7）。そのとき、船の中に大きなかんせいがあがりました。ついに、わたしたちは、ウナギがたまごを産む場所にたどり着くことができたのです。初めて調査に加わったときから、三十六年の年月が流れていました。

ウナギがどこでたまごを産むのかという問題は、これでほぼ明らかになったといっていいでしょう。しかし、なぜこんな遠くまでたまごを産みにやって来るのか、広い海の中でどうやってオスとメスは出会うことができるのか、知りたいことはまだまだふえるばかりです。これらのなぞをとくために、わたしたちは、今年もマリアナの海にやって来たのです。

図7

5

10

つかもと かつみ
塚本 勝巳
一九四八年、岡山県生まれ。海洋生物学者。特に、海と川を行き来する、ウナギやサケなどについて研究している。
この文章は、二〇〇八年に書かれ、二〇一八年に改稿された。

もっと読もう

「ウナギのなぞを追って」を書いた後の、塚本さんのインタビュー記事を読んでみましょう。あなたが関心をもった内容に関わることはあるでしょうか。

――日本では、一九三〇年代からウナギのさんらん場さがしが始まりましたが、たまごの発見まで八十年近く。なぜこれほど時間がかかったのでしょう。

それはね、まさにかぎられた時期のかぎられた場所にしか、たまごがないからなんです。この広い太平洋の中で、あの西マリアナ海嶺の南端部っていうピンポイントでしか、たまごを産まない。おまけにたまごである期間は一・五日しかなくて、その後はもうプレレプトセファルスになるんですよ。

――今はさんらんシーンのさつえいにちょうせんされているとうかがいましたが。

たまごが確実にとれるようになったから、次はさんらんシーンを見たいと考えています。先ほど、たまごの期間は一・五日と言いましたけど、さんらんシーンの場合はほんのいっしゅんです。それに、親ウナギたちは、たまごよりさらにせまいはんいに集まっているはずです。一辺十メートルくらいの四角い場所に固まって、いっしゅんで終わるものを見つけようと思ったら、きわめてむずかしい。

海嶺
大洋の海底に連なる、山脈のような地形のこと。

プレレプトセファルス
生まれたばかりのレプトセファルスのこと。

でも、さんらんシーンを確実にとらえることができるようになれば、オスとメスがあの広い、そして真っ暗な海の中で、どうやっておたがいを見つけるのかっていう、そのメカニズムが分かるんですよね。それが分かるとすごく楽しいし、わくわくしますよね。

――塚本さんが研究を始められたときと今日では、ウナギをめぐるじょうきょうがずいぶん変わったように思いますが。

そのとおりです。ウナギ研究は楽しいなあと思ってむちゅうでやっていた時代は、あっというまに終わり、二〇一〇年ごろからシラスウナギしげんが大きくへって、大変なことになりましたね。

以前は、ウナギの保全活動とかそういったことは自分の仕事ではないと思っていました。よく言われることですが、学問をする人は学問にむちゅうになるあまり、その先にある応用はあまり考えない。ぼくも初めはウナギ研究のおもしろさのとりこになって、社会におけるウナギと人の関わりなどあまり考えなかった。しげんによゆうがあるうちはまだよかったけれど、そうも言っていられなくなった。ウナギというきちょうなしげんを、少なくともぜつめつさせないようにするのはわれわれ研究者のつとめだし、できれば元のしげんじょうたいにもどしてあげたい。そうでないとウナギも、ウナギの研究も、ウナギを食べる文化も、みんななくなってしまいますよね。

シラスウナギ
ウナギの幼魚のこと。とりすぎや、かんきょうはかいなどによって、数が大きくへり、二〇一四年には、ニホンウナギが、ぜつめつするおそれがあるとされた。

見通しをもとう

きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう

- 説明の全体をとらえ、きょうみをもったことにそって、大事な言葉や文を見つけましょう。
- しょうかいする文章を読み合い、文章への着目のしかたや感想のちがいを考えましょう。

とらえよう

●「ウナギのなぞを追って」は、何の調査について書かれた文章ですか。そして、その調査はどんな結果になりましたか。たしかめましょう。

ふかめよう

●「ウナギのなぞを追って」を読んで、あなたが最もきょうみをもったのは、どんなことですか。そのことを中心に、文章全体を読み、要約しましょう。 1 2

- 文章を、内容のまとまりごとに整理しましょう。そして、きょうみをもったことにそって、大事な言葉や文を書き出しましょう。
- 書き出した言葉や文を使ったり、自分の言葉を用いたりして、文章を要約しましょう。きょうみをもったことによって、要約はちがったものになります。友達と読み合って、たしかめましょう。

まとめよう

●きょうみをもったことにそって「ウナギのなぞを追って」を読んだり、要約したりして、筆者の調査についてどのような感想をもちましたか。

ひろげよう

●「ウナギのなぞを追って」をしょうかいする文章を書き、友達と読み合いましょう。友達がきょうみをもったことや感想について、自分とのちがいや、「いいな。」と思うところを見つけて伝えましょう。 3

1 文章への着目のしかたの例

「もっと読もう」（96ページ）を読んだり、次の例を参考にしたりして、きょうみをもったことをはっきりさせましょう。

- レプトセファルスの旅
- 一つの研究に長い年月がかかること
- しだいになぞがとけていくところ　など

2 整理の例——研究に長い年月がかかること

ページ	内容	大事な言葉など
88ページ1行目～90ページ2行目	・何の調査か。 ・マリアナの海に来た理由。 ・調査の開始時期と、分かるまでの年月。	・ウナギがたまごを産む場所の調査。 ・一九三〇年ごろ始まる。 ・八十年近くの年月。

3 しょうかいする文章の例

「ウナギのなぞを追って」は、ウナギがたまごを産む場所を明らかにするために、八十年近くもの年月がかかったという調査の話です。

筆者の塚本勝巳さんは、一九七三年からこの調査に参加している研究者本人です。

一九三〇年ごろ、たまごを産む場所をさがす調査が始まりました。三十年以上すぎた一九六七年、五十四ミリメートルのウナギの赤ちゃんが、見つかりました。

このように、長い苦労の末、ついにたまごが見つかったのです。

それでも、まだまだなぞがあると、筆者は書いています。なぞをずっと追い続ける人たちがいるということに、なんだかむねがいっぱいになりました。

何の話か　要約　感想

ふりかえろう

- □ 知る　大事な言葉や文を見つけるときに、どんなことに気をつけましたか。
- □ 読む　友達の感想で、「こんな感じ方もあるんだな」と思ったのは、どんなことですか。
- □ つなぐ　読んだ文章をしょうかいするときに気をつけたいことは、何ですか。

苦労

たいせつ 感じ方のちがいに気づき、よさを見つける

- 読んだ文章に対する感想や考えには、その人が文章をどう受け止めたり、理解したりしたかが表れている。
- 自分とはちがう感想や考えに出会ったら、ちがいはどこから来ているのか、他の人の感じ方のよさは何かを考えると、読んだ文章への理解が深まる。

いかそう

他の人の考えを聞くときには、何に着目しているかを考えながら聞きましょう。

この本、読もう

次のような本を読み、筆者とともに生き物のなぞにせまりましょう。

ゾウの長い鼻には、おどろきのわけがある！

ゾウの鼻は、なんと、上くちびるもいっしょにのびたものだそうです。

ノラネコの研究

ノラネコは、どんな生活をしているのでしょう。ノラネコをかんさつした筆者が教えてくれます。

アリクイの口のなぞが、ついにとけた！

少ししか開かない。歯が一本もない。アリクイの口のなぞにせまります。

各 産（カク うむ・うまれる） 求（キュウ もとめる） 付（フ つける・つく） 固（コ かためる・かたまる・かたい） 塩（エン しお） 側（ソク がわ〈かわ〉） 労（ロウ）

159ページ

言葉 言葉について考えよう

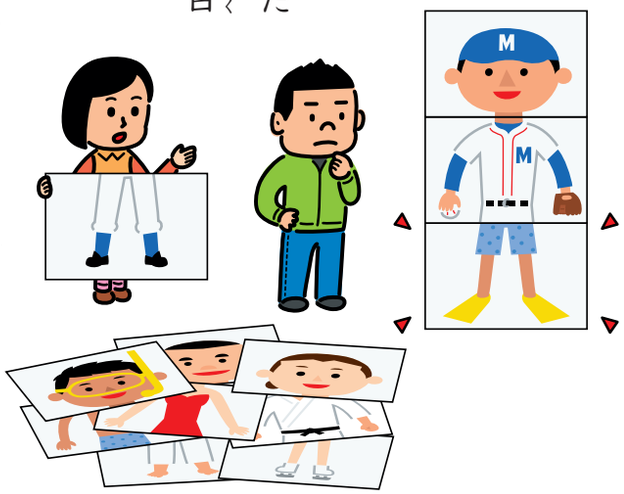
つながりに気をつけよう

自分が書いた文章を読み返したときに、「分かりにくいな」と思ったことはありませんか。ここでは、言葉と言葉や、文と文のつながりに注目して、分かりやすい文章について考えてみましょう。

次の文は、主語と述語が正しく対応していません。読んでみましょう。

- ぼくの目標は、外交官になって世界各国をめぐります。

「目標は」という主語に対応する述語がないため、読みづらさを感じます。「目標は」という主語をそのままにするならば、述語をどのように書き直すとよいでしょうか。考えてみましょう。



目標。　外交官。

次の文は、どのようなことを表しているでしょう。

・女の子は必死で走る弟を追いかけた。

「必死で」という修飾語がくわしくしている言葉が、「走る」なのか「追いかけた」なのかがはっきりしません。そのため、「必死」なのが、「女の子」なのか「弟」なのかがよく分かりません。読点を打ったり、言葉の順番を入れかえたりして、それぞれの意味が分かる二つの文にしてみましょう。

一文が長いと、表していることがつかみにくくなることがあります。①と②をくらべてみましょう。どちらが読みやすいですか。理由も考えてみましょう。

① 野鳥が、庭の木に来て、巣を作り、たまごを産んだので、家の中から野鳥の様子を見守ったところ、天候が悪い日もあり、風雨の強い日もあり、庭の木

に作った巣がこわれないか心配だったが、ひなは無事に巣立っていった。

② 野鳥が、庭の木に来て、巣を作り、たまごを産んだ。そこで、家の中からその様子を見守った。天候が悪い日や、風雨の強い日もあり、巣がこわれないか心配だった。しかし、ひなは無事に巣立っていった。

多くの場合、一文が短いほうが、その文で言いたいことがつかみやすくなります。文が長くなったときには、内容の切れ目で文を分けてみるとよいでしょう。そのとき、つなぎ言葉を入れたほうがよいかどうかも考えましょう。

また、同じような言葉や内容をくり返しているところを、省いたり、こそあど言葉に置きかえたりすることでも、一文は短くなります。

ただし、主語が同じ文が続く場合など、一文でまとめたほうが分かりやすいこともあります。②の一文目と、次のページの例文をくらべて、たしかめてみましょう。

巣　天候　風雨　野鳥

・野鳥が、庭の木に来た。野鳥が、巣を作った。野鳥が、たまごを産んだ。

どう書くと読む人にとって分かりやすいかを、考えるようにしましょう。

次の文章を、分かりやすくなるように書き直しましょう。そして、どのように直したのか、友達と見せ合いましょう。

冬の夜空を観察して感じたことは、夏よりも明るい星が多く見える。特に青白く光るシリウスが気になり、姉と調べたところ、シリウスは太陽と同じく自ら光る星で、シリウスは夜空で最も明るく見える星だということが分かり、シリウスは地球から約八十一兆三千億キロメートルもはなれたところにあることも知った。ぼくは姉と父にお願いして、望遠鏡を買ってもらうつもりだ。

10　5

観察。
・自ら
八十一兆。
三千億。
望遠鏡。

標官巣候察兆億鏡

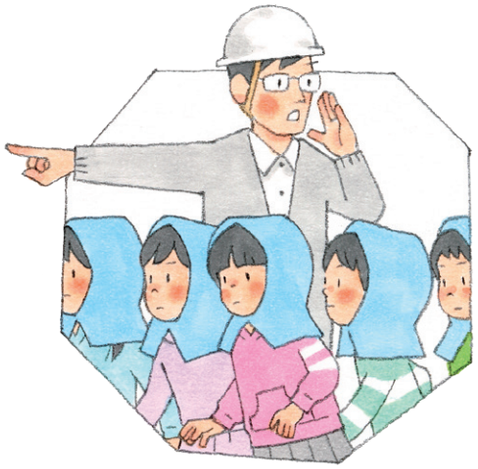
159ページ

書く

考えたことを書き、読み合おう

もしものときにそなえよう

じしんや大雨など、自然災害はいつ起こるか分かりません。「そなえあれば、うれいなし」という言葉がありますが、どうそなえるとよいのでしょう。調べて、自分の考えを書き、クラスのみんなに知らせましょう。



●たしかめよう

「四年上までの学びをたしかめよう」6ページ

「伝統工芸のよさを伝えよう」53ページ

●学習の進め方

決めよう 集めよう
1 テーマを決めて、調べる。
2 調べたことを整理する。

組み立てよう
3 組み立てをたしかめる。

書こう
4 考えを伝える文章を書く。
5 書いた文章を読み返す。

つなげよう
6 文章を読み合い、感想を伝える。

●ふりかえろう

1 テーマを決めて、調べよう。

あなたは、どんなときのそなえについて考えたいですか。まず、大きなテーマを選びます。次に、そのテーマについてくわしく知りたいことを決めましょう。

知りたいことが決まったら、それに合った方法で調べていきます。複数の本を読んだり、ちがう方法で調べたりすることで、調べた内容が正しいかどうかをたしかめるようにしましょう。

気になったことや分かったことは、カードなどに書き出しておきましょう。何から調べたのかも、書きとめておきます。

2 調べたことを整理しよう。

自分の考えをはっきりさせたり、文章の組み立てを考えやすくしたりするために、調べて分かったことを整理しましょう。読む人に役立つかどうかを考えて、内容ごとに分類しておくと、書くときに便利です。

「分ける・くらべる」 9ページ

3 組み立てをたしかめよう。

調べることを通して、あなたはどんなことが大切だと考えましたか。考えを伝える文章を、「初め」「中」「終わり」の組み立てで書きましょう。

「初め」と「終わり」には、自分の考えを書きましょう。「中」には、理由やくわしい説明を書きます。調べたことの中から、取り上げるものを決めましょう。

■テーマの例

- 台風　・大雨・大雪
- かみなり　・じしん
- つなみ　・火山のふんか　など

テーマに関する本や図鑑を読み、気になることをさらにくわしく調べていくのもいいですね。

大雨でひなんするときに、気をつけることを知りたいな。

■調べる方法の例

- 図書館の本や図鑑を読む。
- ちいきの資料を見る。
- 関係するしせつや資料館などに行く。
- インターネットを活用する。
- くわしく知っている人にきく。

じしんでひなんするとき、持っていくとよい物が、いろいろあるんだなあ。

- 自然災害。

■メモの例

「水があふれた道路では，水の流れで動けなくなるおそれがあるので，早めにひなんする」

松下正一「天気の安全ブック」海山書店，2019年

大雨のときは、早めにひなん所に行くことが大切だと思う。

おくれると、きけんがあることを理由として挙げるといいから、――。

4 考えを伝える文章を書こう。

読む人に、自分の考えが伝わるように書きましょう。

北山さんと木村さんの文章には、どのような書き方の工夫がありますか。気づいたことを出し合って、参考にしましょう。

■北山さんの文章（理由を挙げて説明している）

わたしは、調べたことを通して、大雨のときは早めにひなんすることが大切だと考えました。

なぜなら、水があふれた道路を歩くのは、きけんだからです。「天気の安全ブック」によると、「水があふれた道路では、水の流れで動けなくなるおそれがある」そうです。水があふれて、道路と用水路などのさかい目が分からなくなっている写真ものっていました。

もう一つ理由があります。それは、大雨の中のひなんは、周りがよく見えず、きけんがますということです。ぼうさい資料室の岸さんは、「雨が強いと、車などが近づいてくるのにも気づきにくくなります。」とおっしゃっていました。

これらの理由から、大雨が予想されるときは、ひなんしやすいうちに、安全な場所に行くことが大切だと考えます。

文章の最後には、引用したり参考にしたりした本などを、出典としてまとめましょう。

〈出典〉
松下 正一「天気の安全ブック」海山書店、二〇一九年
大谷 良子「災害から身を守る」大空図書、二〇一七年

初め：自分の考えを書く。

中：理由や説明を，内容のまとまりごとに，くわしく書く。

終わり：自分の考えを，もう一度書く。

■木村さんの文章（例を挙げて説明している）

じしんへのそなえで大切なことは、自分や家族にとって必要なものを用意することだと考える。

例えば、ぼくの妹は、生後八か月だ。「災害にそなえよう」という本の「赤ちゃんに必要な物リスト」を見ると、飲みなれている種類のミルクやほにゅうびん、紙おむつなどを用意しておくとよいことが分かった。

ぼくの家には犬もいる。市の資料によると、東中学校が、けがをした動物のちりょうもしてもらえるひなん所になるようだ。同じ資料には、「ふだんからほえないようにしつけ、キャリーバッグや食事を用意しておくように」と書いてあった。

このように、必要なそなえは、人によってちがってくる。みなさんも、自分や家族には何が必要かを考え、そなえを見直してはどうだろう。

理由や例を書くときに使いたい言葉

〈理由〉
- なぜなら――。
- その理由は、――。
- ――ためである。

〈例〉
- 例えば、――。
- 例を挙げると――。
- ――が当たる。

5 書いた文章を読み返そう。

書き終わったら、次の点を見直しましょう。

- 引用した部分の数字や言葉は正しいか。
- 言葉と言葉、文と文のつながりは正しいか。
- 文末の書き方はそろっているか。

声に出して読み、読みづらいところはないかもたしかめましょう。

6 文章を読み合い、感想を伝えよう。

書き手が何を伝えたいのかを考えながら読み、感想を伝えましょう。

- 「なるほど」となっとくしたこと。
- 「分かりやすいな」と思った書き方。

気になることや、くわしく知りたいことがあれば、しつもんしてみましょう。

印刷

みんなが書いた文章を印刷するなどして、クラスのぼうさいブックを作ってもいいですね。

たいせつ 文章の感想を伝え合う

- 書き手の考えをふまえながら、くわしく感想を伝える。
  - 相手の考えを理解するのに、役立った点。
  - 工夫していると思った書き方。
- 感想を聞くときは、自分の考えが正しく伝わっているかどうかをたしかめる。

いかそう

次に考えを伝える文章を書くとき、友達や自分の文章の工夫した点を取り入れましょう。

ふりかえろう

- □ 知る　どのような理由や例を挙げると、自分の考えが伝わりやすいと思いましたか。
- □ 書く　友達の感想を知ることで、自分の文章のどんなよさや改善点に気づきましたか。
- □ つなぐ　文章で自分の考えを伝えるためには、どのようなことに気をつけたいですか。

害 ガイ

刷 サツ する

160ページ

話す・聞く

調べて分かったことを話そう

調べて話そう、生活調査隊

ふだんの生活の中で、「みんなはどうしているのかな」と思うことはありませんか。生活に関するぎもんをグループで調査して、クラスのみんなに発表しましょう。資料を使って、分かったことや考えたことが伝わるように話しましょう。

●たしかめよう

「四年上までの学びをたしかめよう」 5ページ

●学習の進め方

決めよう集めよう ◀ じゅんびしよう ◀ 話そう聞こう ◀ つなげよう

1 調べたいことを決める。
2 アンケートを取る。
3 アンケート結果を整理し、資料を作る。
4 発表する。
5 感じたことを伝え合う。

●ふりかえろう

1 調べたいことを決めよう。

自分やみんなの生活について、感じていることをグループで出し合いましょう。その中から、調べたいことを選びましょう。

2 アンケートを取ろう。

調べたいことについて、アンケートを作りましょう。回答をおおまかに予想して、問いを作りましょう。

「アンケート調査のしかた」 上96ページ

■調べることの例

- すいみんについて
- 食生活について
- 放課後のすごし方について
- 読書について

■アンケートの例

放課後のすごし方についてのアンケート

4年1組 2はん

問い1 放課後をどこですごすことが多いですか。いちばん多い場所に○を付けてください。

【答え】
ア　自分や友達の家
イ　学校の教室
ウ　学校の校庭
エ　公園や広場
オ　図書館や児童館
カ　その他（　　）

問い2 放課後，何をしていますか。（最大三つまで）

【答え】

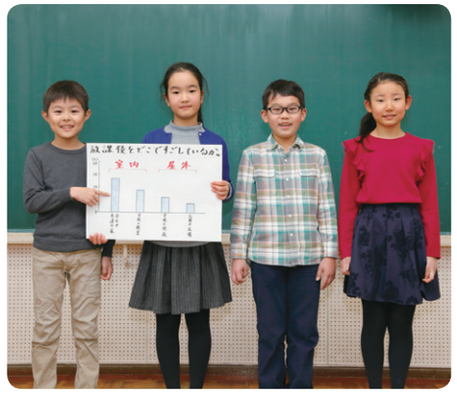
問い3 3年生のときとくらべて，放課後のすごし方は変わりましたか。

3 アンケート結果を整理し、資料を作ろう。

アンケート結果を整理し、そこからどんなことが分かるかを考えましょう。そして、それが分かりやすく伝わるように、グラフや表などにまとめましょう。

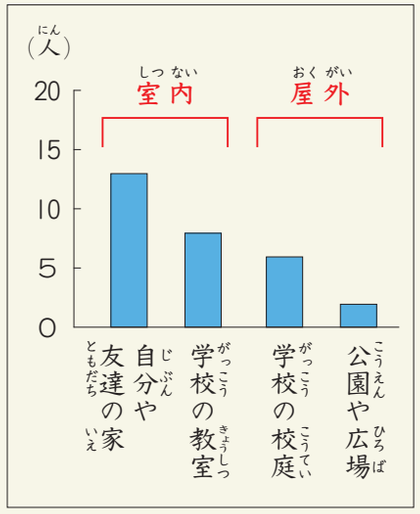
4 発表しよう。

アンケート結果をまとめた資料を見せながら、発表しましょう。資料を見てほしいときは、そのことが聞き手に分かるように話しましょう。



■資料の例

放課後をどこですごしているか。



■発表の例

北山

わたしたちは、「放課後のすごし方」というテーマで、調査をしました。

聞く人のきょうみを引くようによびかける

みなさんは、放課後をどのようにすごしていますか。わたしたちの町には、緑ゆたかな公園や広場がたくさんありますが、みなさんのふだんの会話を聞いていると、室内ですごしていることが多いと感じました。そこで、アンケートを取って、その実態を調べました。アンケート結果から分かったことや考えたことを発表します。

竹中

まず、放課後をどこですごしているかの調査結果です。このグラフを見てください。いちばん多いのは、「自分や友達の家」で、十三人でした。そして、二番目が「学校の教室」で、八人でした。この二つを合わせると二十一人で、予想どおり、多くの人が室内ですごしていることが分かりました。

間を取る←　グラフの見てほしい部分を指さす

グラフの見てほしい部分を指さす

やや強く言う

木村

次に、放課後に何をしているかについての調査結果です。「テレビゲームをしている」と回答した人が十人で、最も多い結果になりました。

…

原田

わたしたちの町には、たくさんのすてきな公園があります。ときには、外に出て、自然を感じながら、体を動かしてみませんか。

これで、わたしたちの発表を終わります。

伝えたいことを

特に強く言う

初め
- 話題をはっきり伝える。
- 調べたきっかけや目的を話す。

中
- 何を調べたのかを話す。
- 調べて分かったことを話す。

終わり
- 考えたことや伝えたいことを話す。

5 感じたことを伝え合おう。

自分の生活とくらべながら聞き、しつもんをしたり、発表のよかったところを伝えたりしましょう。

■しつもん

■感想

ふりかえろう

□知る
□話す・聞く
□つなぐ

みんなの前で発表するとき、どんなことに気をつけましたか。
自分の考えが伝わるように、どんな話し方の工夫をしましたか。
これから調べたことを話すときは、どんな工夫をしたいですか。

たいせつ　調べたことを発表する

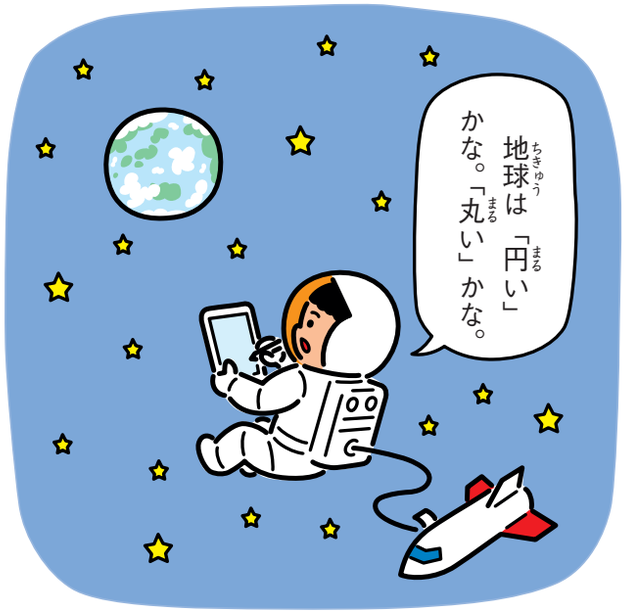
●声の大きさや速さ、強弱、間の取り方に気をつけて、大事なことが伝わるように話す。
●表やグラフなどの資料を見せながら、聞く人に分かりやすく話す。

いかそう

調べたことを発表するときには、伝えたいことが聞く人に分かるように工夫しましょう。

言葉　まちがえやすい漢字

みなさんには、書くときや読むときにまちがえやすい漢字がありませんか。



平がなで書くと同じになる言葉

平がなで書くと同じになる言葉は、たくさんあります。しかし、意味は、どれも同じではありません。文の中での言葉の意味を考えて、正しい漢字を使いましょう。

1 次の文では、それぞれ、どちらの漢字を使うのが正しいでしょうか。意味を考えて下から選びましょう。

- きずがはやく治るとよい。
- はやく走れるよう努力する。

速く　早く

治る　努力

- 倉庫の戸があく。
- 向かい側の席があく。

開く　空く

- 受付に名札をかえす。
- 妹を先にかえす。

帰す　返す

- 工場のきかい化に成功する。
- 打楽器を習うきかいをえる。

機会　機械

- 英語いがいの言語も学ぶ。
- 牧場は、いがいに遠かった。

意外　以外

5

なじみのない読み方

漢字は知っていても、その漢字が使われている言葉になじみがないと、読めないことや読みまちがうことがあります。

2 次の言葉の意味を、国語辞典で調べましょう。また、それぞれの言葉を使って、文を作りましょう。

- 米作（べいさく）
- 戸外（こがい）
- 木かげ（こかげ）
- 半ば（なかば）

まちがえやすい漢字に気づいたら、その漢字の意味や読み方をたしかめましょう。

10　5

治（ジ）　おさめる　おさまる　なおる　なおす
努（ド）　つとめる
倉（ソウ）　くら
札（サツ）　ふだ
功（コウ）
器（キ）
英（エイ）
牧（ボク）

160ページ

- 倉庫
- 名札
- 成功
- 打楽器
- 英語
- 牧場
- 米作
- 戸外
- 木かげ

5

初雪のふる日

読む

読んで感じたことをまとめ、伝え合おう

初雪のふる日に、女の子にどんなことが起こるのでしょう。この物語を読んで、あなたは何を感じるでしょうか。

これまでの学習

人物や物語に対する考えを深める

（ごんぎつね）……32ページ

初雪のふる日

安房 直子 作
寺門 孝之 絵

秋の終わりの寒い日でした。

村の一本道に、小さな女の子がしゃがんでいました。女の子は、うつむいて地面をながめていました。それから、首をかしげて、ほうっと大きな息をつくと、

「だれが、石けりしたんだろう」。

とつぶやきました。その道には、ろうせきでかかれた石けりの輪が、どこまでも続いていたのです。どこまでも、どこまでも、橋をわたって、山の方まで。女の子は立ち上がって、目を真ん丸にして、

「なあんて長い石けり」。

とさけびました。それから、ろうせきの輪の中に、ぴょんと飛びこんでみました。すると、女の子の体は軽くなって、ゴムまりみたいにはずんできたのです。

かた足、かた足、両足、かた足——。

両手をポケットに入れて、女の子は進んでゆきました。石けりをしながら、女の子は橋をわたりました。キャベツ畑の細い道を通りました。村でたった一けんの、たばこ屋の前を通りました。

石けり
地面に丸や四角の図形をかき、その中に小石を投げ入れたり、けったりして、順に進んでいく遊び。地方により、さまざまなよび名がある。

ろうせき
ろうのように見える石で作った筆記具のこと。チョークのように使って線をかく。

「おや、元気がいいねえ」。
と、店番のおばあさんが言いました。女の子は、あらい息をしながら、とくいそうに笑いました。おかし屋の前では、大きな犬が歯をむき出してほえました。それでも、女の子は進んでゆきました。石けりの輪は、まだまだ続いていたのです。
「こんなに長い石けり、だれがかいたんだろう。」とびながら、女の子は、そればかり考えていました。
バスのていりゅう所の辺りまで来たとき、ほろほろと雪がふり始めました。かわいたこな雪でした。それでも、石けりの輪は終わりません。女の子は、顔を真っ赤にして、あせをびっしょりかいて、とんでゆくのです。
かた足、かた足、両足、かた足――。
空はどんよりと暗くなり、風も冷たくなりました。雪は、だんだんはげしくふり始め、女の子の赤いセーターの上に、冷たい。

ほっほっほと、白いもようを付けました。
「ふぶきになるわ」と、女の子は思いました。
「もう帰ろうかな」。
そうつぶやいたときです。後ろで、こんな声がしました。
「かた足、両足、とんとんとん」。
びっくりして、とびながらふり向くと、真っ白いうさぎが、石けりをしながら女の子の後を追いかけてくるじゃありませんか。
「かた足、両足、とんとんとん――」。
よくよく見ると、その後ろにも白うさぎ、そのまた後ろにも白うさぎ――。
ふりしきる雪の中を、もう後から後から、白いうさぎが続いてくるのでした。女の子はびっくりして、目をぱちぱちさせました。すると、今度は前で声がしました。

「後ろから来るのは白うさぎ、前をゆくのも白うさぎ、かた足、両足、とんとんとん。」

あわてて前を見ると、女の子の前を、やっぱりたくさんのうさぎが、一列になってとんでゆくのでした。

「うわあ、ちっとも知らなかった。」

女の子は、ゆめを見ているような気がしました。

「ねえ、どこへ行くの。この石けりの輪、どこまで続いているの。」

すると、前のうさぎが とびながら答えました。

「どこまでも、どこまでも、世界の果てまで。わたしたちみんな、雪をふらせる雪うさぎですからね。」

「ええっ。」

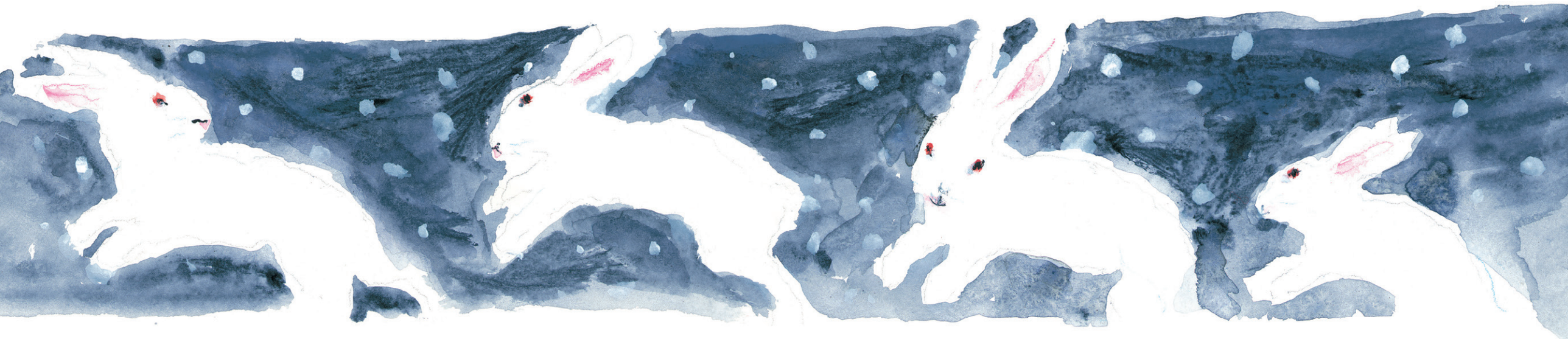
このとき、女の子はどきっとしました。いつか、おばあさんから聞いた話を思い出したからです。

初雪のふる日には、北の方から、白いうさぎが、どっとやって来るのだと、おばあさんは言いました。うさぎの群れは、一列になって、山から山へ、村から村へと雪をふらせてゆくのだと。その速いことといったら、もう目が回るくらいで、人の目には、一本の白いすじにしか見えないのだと。

「だから、気をつけなけりゃいけないよ。もしも、そのうさぎの群れにまきこまれたりしたら、もう帰ってこられなくなるからね。うさぎといっしょに、世界の果てまでとんでいって、最後には、小さい雪のかたまりになってしまうんだから。」

あのとき、女の子は目を大きく見開いて、なんとおそろしい話だろうかと思ったのでした。が、たった今、自分は、そのうさぎにさらわれてゆくところなのでした。

「大変だ。」女の子は止まろうとしました。次の輪の中に、足を入れるのをやめようとしました。けれどもこのとき、後ろの



うさぎがこう言いました。
「止まっちゃいけない。後がつかえる。かた足、両足、とんとんとん。」
それだけで、女の子の体は、また、ゴムまりみたいにはずみだし、ろうせきの輪のとおりにとんでゆくのでした。
とびながら、女の子は、一生けんめい おばあさんの話を思い出しました。あのとき、おばあさんは はり仕事の手をちょっと休めて、こんなことを言いましたっけ。
「それでも、昔、たった一人だけ、白うさぎにさらわれて、生きて帰れた子どもがいたっけねえ。その子は、一生けんめい おまじないを唱えたのさ。よもぎ、よもぎ、春のよもぎって。よもぎは、まよけの草だからね。」
それなら、わたしもやってみようと、女の子は思いました。女の子は、とびながら、春のよもぎの野原を思いうかべました。あたたかいお日様と、たんぽぽの花と、みつばちと、ちょうちょうのことを考えました。それから、大きく息をついて、
「よもぎ、よもぎ――。」
と言いかけたとき、もううさぎたちは、声をそろえて自分たちの歌を歌いだしたのです。

ぼくたちみんな雪うさぎ
雪をふらせる雪うさぎ
うさぎの白は、雪の白
かた足、両足、とんとんとん

女の子は、急いで耳をふさぎました。が、うさぎの歌声はどんどん大きくなり、ふさいだ指のすき間からつむじ風の

唱える。

ように入りこんできて、女の子は、どうしても、よもぎのおまじないを唱えることができないのでした。

こうして、白うさぎの群れと女の子は、もみの森をぬけ、こおった湖をわたり、これまで一度も来たことのない、遠い所までやって来ました。小さな草屋根がひっそりとならんだ、谷間の村もありました。さざんかのさいた、小さな町もありました。工場のたくさんある、大きな町もありました。けれども、人々はだれも、うさぎの群れと女の子に気づきません。

「ああ、初雪だ。」

とつぶやいて、小走りに通りすぎてゆくだけでした。

女の子は、とびながら、一生けんめい おまじないを唱えようとするのですが、その声は、どうしても、うさぎの歌につりこまれてしまうのでした。

うさぎの白は、雪の白
かた足、両足、とんとんとん

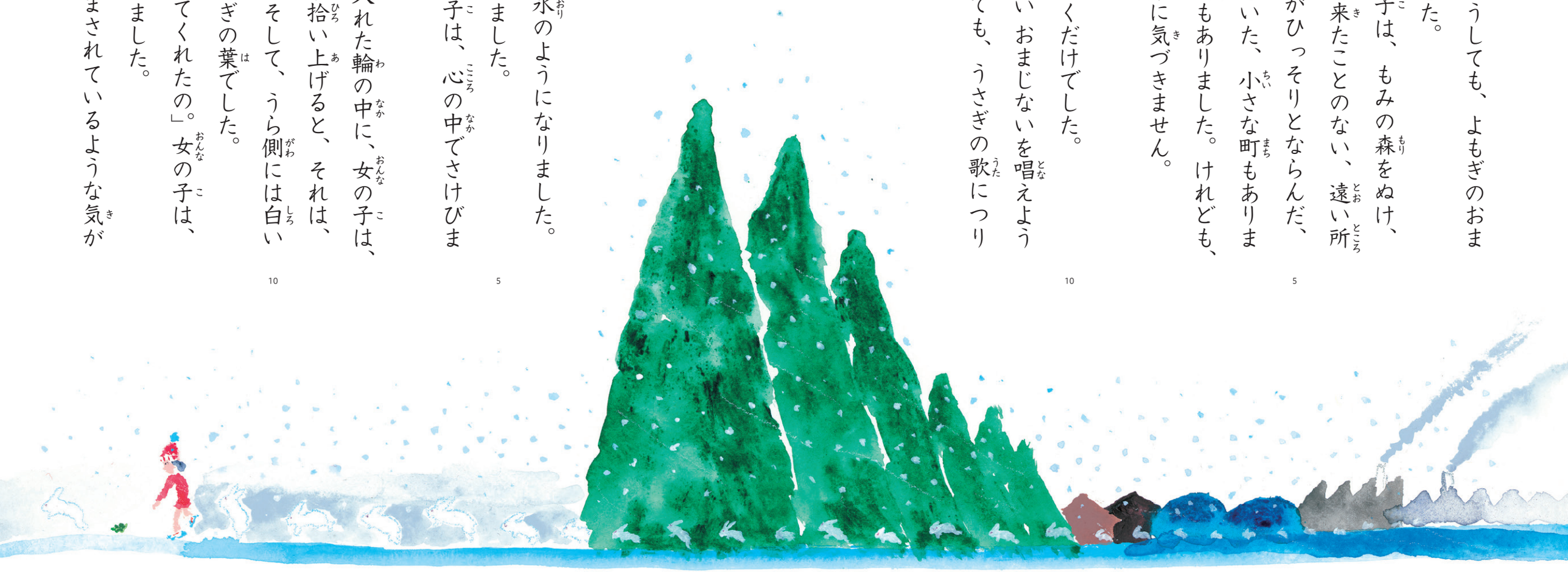
女の子の手足はかじかんで、もう氷のようになりました。ほほは青ざめ、くちびるはふるえていました。

「おばあちゃん、助けて――。」女の子は、心の中でさけびました。

このときです。たった今かた足を入れた輪の中に、女の子は、一まいの葉を見つけたのです。思わず拾い上げると、それは、よもぎの葉でした。あざやかな緑の、そして、うら側には白い毛のふっくりと付いた、やさしいよもぎの葉でした。

「うわあ、だれが。だれが、落としてくれたの。」女の子は、よもぎの葉を、そっとむねに当ててみました。

すると、女の子は、だれかにはげまされているような気が



してきました。たくさんの小さなものたちが、声をそろえて、がんばれがんばれと言っているように思えてきました。

そうです。それは、雪の下にいる、たくさんの草の種の声でした。今、土の中でじっと寒さにたえている草の種のいぶきが、一まいの葉を通して、女の子のむねに伝わってきたのでした。

「がんばれ、がんばれ。」

このとき、女の子の頭に、ふっとすてきなぞなぞがうかびました。女の子は目をつぶって、大きく息をつくと、

「よもぎの葉っぱのうら側は、どうしてこんなに白いのかしら。」

とさけびました。

これを聞いて、前のうさぎの足取りがみだれました。前のうさぎは、歌うのをやめてふり向きました。

「よもぎの葉っぱのうら側だって。」

すると、今度は後ろのうさぎが、ちょっとよろけて、

「どうしてだろうなあ。」

と言いました。うさぎたちの歌声はとぎれて、足取りもおそくなりました。そこで、女の子は、ひと息に言いました。

「そんなことはかんたんよ。あれは、みんな、うさぎの毛。野原でうさぎが転がって、よもぎの葉っぱのうら側に、白い毛がどっさり落ちたのよ。」

これを聞いて、うさぎたちはすっかりよろこんで、

「そうだ、そうだ、それにちがいない。」

と言いました。そして、こんな歌を歌い始めたのです。

うさぎの白は、春の色
よもぎの葉っぱのうらの色
かた足、両足、とんとんとん

すると、どうでしょう。この歌に合わせてとびながら、女の子は、花のにおいをかいだような気がしました。小鳥の声を聞いたような気がしました。あたたかい春の日をいっぱいに浴びて、よもぎの野原で石けりをしているような気持ちになりました。女の子の体は、だんだん温かくなり、ほほは、ほんのりばら色になりました。女の子は、目をつぶって大きく息をすうと、むちゅうでさけびました。

「よもぎ、よもぎ、春のよもぎ」。

と。

気がついたとき、女の子は、たった一人で、知らない町の知らない道をとんでいました。前にも後ろにも、うさぎなんか一ぴきもいません。ほろほろと雪のまう一本道に、もう石けりの輪はなく、そして、女の子の手の中のよもぎの葉も、消えていました。

「ああ、助かった。」と、女の子は思いました。けれどもこのとき、女の子の足はもうぼうのようで、動きませんでした。

どこからかやって来た見知らぬ女の子を、町の人々が取りかこみました。そして、名前や住所をたずねました。女の子が自分の村の名前を言うと、人々は顔を見合わせて、口々に、とても信じられないと言いました。いくつも山をこえたそんな遠い所から、子どもが歩いてこられるわけがなかったのです。

このとき、一人の年よりが言いました。

「この子は、きっと、白うさぎにさらわれそうになったのだ。」と。

女の子は、町の食堂で温かいものを食べさせてもらい、日のくれないうちに、バスで送り返してもらうことになりました。

安房 直子
一九四三〜九三年。東京都生まれ。作家。「風と木の歌」「遠い野ばらの村」などの作品がある。

見通しをもとう

読んで感じたことをまとめ、伝え合おう

- 場面の様子や、登場人物の気持ちを表す言葉に着目しましょう。
- どの表現から何を感じたかを伝え合い、感じ方のちがいを見つけましょう。

とらえよう

●「初雪のふる日」では、どんな出来事が起こりましたか。そして、物語の結びで登場人物はどうなりましたか。たしかめながら読みましょう。

●この物語を読んで、どんなことを感じましたか。ノートにかんたんに書いておきましょう。

ふかめよう

●女の子の様子や気持ちの変化を考えましょう。

- おばあさんの話を思い出したとき
- よもぎの葉を見つけたとき
- 町の人に取りかこまれたとき

●場面の様子を表す言葉に着目して読み返し、気づいたことや感じたことをノートに書きましょう。

1

まとめよう

●この物語を、あなたはどんな物語だと感じましたか。初めに読んだときに感じたことや、言葉や表現から感じたことなどを理由に挙げて、二百字くらいで書きましょう。

2

ひろげよう

●書いたものをグループで読み合いましょう。友達は、物語の何に着目し、どんなふうに感じたのでしょうか。あなたの感想とにているところや、ちがうところを見つけながら読み、考えたことを伝えましょう。

3

1 着目する言葉や表現

- 天気などに関係する言葉
- 色や、さわった感じを表す言葉
- 大きさや数などを表す言葉
- くり返しの表現
- くわしくする表現（修飾語）
- 対比的な表現

2 考えをまとめた文章の例

わたしは、「初雪のふる日」は、読む人にこわさを感じさせる物語だと思います。

わたしが特にそう感じるのは、何度も出てくる、「かた足、両足、とんとんとん」という歌です。初めに出てくるときは何も感じないこの歌が、出てくるごとに、だんだん女の子を追いつめて、白うさぎの列からぬけ出せなくなるじゅもんのように思えてきます。

物語を読んだ後も、この歌が頭をはなれなくなります。「初雪のふる日」は、そんなこわさを感じさせる物語だと思います。

3 友達と自分の感じ方をくらべる

次のようなことを見つけながら、友達の書いた文章を読みましょう。

- 感じたことはにているが、着目したことがちがう。
- 着目したことは同じだが、感じたことがちがう。
- 自分にはない読み方や感じ方。

ふりかえろう

□ 知る　感想に結び付いている言葉や表現を、どのように見つけましたか。

□ 読む　自分の感じ方を友達とくらべるときに大切なのは、どんなことだと思いますか。

□ つなぐ　感じたことを友達と伝え合うと、どんないいことがあると思いますか。

たいせつ

感じ方のちがいを楽しむ

●物語の印象は、使われている言葉や表現から生まれる。着目する言葉や、そこから何を思いうかべるかがちがえば、印象も変わってくる。

●物語の何を、どのように受け止めたかを伝え合うと、同じ作品を新たな角度から味わうことができる。

いかそう

印象に残った言葉や表現に着目して、物語をしょうかいしてみましょう。

この本、読もう

読んで感じたことや考えたことを、友達と話してみましょう。

おおきな木

昔、りんごの木があって、ちびっこと仲よしでした。ちびっこも、木も、おたがいが大好きで——。

花豆の煮えるまで

山おくの温泉宿でおばあさんと住む小夜に、さまざまな不思議がおとずれます。

空とぶライオン

ねこたちをがっかりさせたくなくて、空を飛ぶことがやめられなくなったライオンのお話です。

冷唱（レイショウ）

つめたい　ひえる　ひや　ひやす　ひやかす　さめる　さます

160ページ

付録

学習を広げよう

「たいせつ」のまとめ……140
聞くことのトレーニング……144
本の世界を広げよう……146
百人一首に親しもう……148
これまでに習った漢字……150
この本で習う漢字……157
言葉のたから箱……161

たいせつ

「たいせつ」のまとめ

四年生で学習する、大切なことをまとめています。

- たしかめたり、他の学習で使ったりしましょう。
- できるようになったことを、どんな場面でいかしたいですか。くらんに書きましょう。

話す・聞く

学習の進め方

決める 集める ◀ じゅんびする ◀ 話す・聞く ◀ つなげる

四年上

聞きながらメモを取るときは

- 必要なことは何かを考え、大事な言葉を書く。　など

41ページ

役わりをいしきしながら話し合う

〈司会グループの役わり〉

- 多くの参加者の意見が出るように、工夫して進行する。
- 出された意見や、どうやって決めるかなどを、黒板などで整理してしめす。

〈参加者の役わり〉

- 自分の立場を明らかにして、積極的に発言したりしつもんしたりする。

調べたことを発表する

- 声の大きさや速さ、強弱、間の取り方に気をつけて、大事なことが伝わるように話す。
- 表やグラフなどの資料を見せながら、聞く人に分かりやすく話す。

116ページ

こんな場面でいかそう

書く

学習の進め方

決める 集める ◀ 組み立てる ◀ 書く ◀ つなげる

四年上

手紙で気持ちを伝える

- 何に対して、どんな気持ちなのかを書く。
- 手紙の型にそって、ていねいな言葉を使って書く。

事実を分かりやすく伝える

- 伝えたいことの中心を明らかにする。
- 伝えたいことを書く。　など
- 文章の書きだしに、最も伝えたいことを書く。

56ページ

理由や例を挙げて考えを伝える

- 伝えたいことを考えて、調べたことを整理する。
- 理由や例と、伝えたいこととの関わりが分かるように書く。

79ページ

読み返して、書いたものを整える

- 自分の思いが読む人にも伝わるかを考える。
- 他の言葉や言い方がないかを考える。
- 言葉の順序や調子を変えると、作品の印象が変わることがある。

111ページ

文章の感想を伝え合う

- 書き手の考えをふまえながら、くわしく感想を伝える。
  - 相手の考えを理解するのに、役立った点。
  - 工夫していると思った書き方。
- 感想を聞くときは、自分の考えが正しく伝わっているかどうかをたしかめる。

こんな場面でいかそう

説明する文章

四年上

筆者の考えをとらえる

●考えをのべた文章では、文章の初めと終わりの両方で、考えをくり返しのべていることが多い。　など

51ページ

要約する

●まとまりごとに、中心となる語や文をたしかめる。

●分量を考えて、元の文章の組み立てをいかしたり、自分の言葉を用いたりして、短くまとめる。

感じ方のちがいに気づき、よさを見つける

●読んだ文章に対する感想や考えには、その人が文章をどう受け止めたり、理解したりしたかが表れている。

100ページ

●自分とはちがう感想や考えに出会ったら、ちがいはどこから来ているのか、他の人の感じ方のよさは何かを考えると、読んだ文章への理解が深まる。

物語・読書

四年上

場面と場面のつながりを考える

●人物や場面の様子を表す言葉に気をつけて、場面と場面のつながりを見つける。　など

特別な言葉に着目する

●題名に用いられる言葉や、くり返し用いられる言葉などに着目することで、作者の思いにせまることができる。

事実にもとづいて書かれた本を読む

●ノンフィクションには、さまざまな内容のものがある。事実の取り上げ方のちがいなどに着目すると、選びやすい。　など

32ページ

人物や物語に対する考えを深める

●場面と場面を、結びつけたりくらべたりして、気持ちの変化をとらえる。

●他の人の考えや、自分とはちがう見方を知ると、物語に対する考えを深めることができる。　など

登場人物の変化と、出来事の関係をとらえる

●場面のうつり変わりに気をつけて読み、登場人物の気持ちや考え方が表れている部分を見つける。

76ページ

●人物の変化に、どんな出来事がどのように関わっているのかを考える。　など

感じ方のちがいを楽しむ

●物語の印象は、使われている言葉や表現から生まれる。着目する言葉や、そこから何を思いうかべるかがちがえば、印象も変わってくる。

138ページ

●物語の何を、どのように受け止めたかを伝え合うと、同じ作品を新たな角度から味わうことができる。

こんな場面でいかそう

〈説明する文章〉　〈物語〉　〈読書〉

聞くことのトレーニング

みなさんは、友達と話すときに、うまく会話が続かないと感じたことはありますか。会話をよりよいものにするためには、聞き手の聞き方がとても大切です。相手が気持ちよく話せるような聞き方を練習してみましょう。

相手の顔を見て聞く

話を聞くときは、相手の顔を見て、うなずいたり相づちを打ったりすることが大切です。聞き手が相手の顔を見るかどうかで、話し手の感じ方がどのようにちがうかを体験してみましょう。

活動の方法

① 二人一組になる。
② 話し手と聞き手に分かれ、話し手は「好きなもの」とその理由について二文程度で話す。
③ 一回目は、聞き手は、相手を見ないで聞く。
④ 二回目は、聞き手は、相手を見て、うなずいたり相づちを打ったりしながら聞く。
⑤ ③と④で、話し手がどのように感じたかを交流する。

会話を続ける

会話をするときは、聞き手がしつもんをすることで、話し手が話しやすくなります。相手の話を受けて、しつもんをしながら、会話を続ける練習をしましょう。

活動の方法

① 二人一組になる。
② 話し手と聞き手に分かれ、話し手は「最近の出来事」を一文で話す。
③ 聞き手は、相手の話した言葉を使ってしつもんをし、話し手はそのしつもんに答える。
④ 聞き手は、ふたたび相手の話した言葉を使ってしつもんをし、会話をできるだけ長く続ける。

会話の例

「昨日、動物園に行ったんだ。」
「それは、どこの動物園。」
「〇〇市の△△動物園だよ。」
「いいね。だれと△△動物園に行ったの。」
「お父さんとお母さんと妹。」
「妹が好きな動物は何なの。」
「妹は、パンダが好きなんだ。ぼくも、パンダが大好きだよ。」
「その動物園で、パンダは見られたの。」
…

本の世界を広げよう

物語・絵本

窓ぎわのトットちゃん

黒柳 徹子 作
いわさき ちひろ 絵

トットちゃんこと黒柳徹子さんは、トモエ学園に通いました。そこで、すてきな友達と温かい先生に出会います。

りこうなおきさき

モーゼス＝ガスター 文
光吉 夏弥 訳

市場に行って羊を売り、お金といっしょに羊を連れて帰る方法とは。お話のおもしろさに引きこまれます。

狂言えほん ぶす

内田 麟太郎 文
長谷川 義史 絵

近づくだけで命を失うという、ぶす。しかし、ぶすは、なんともおいしそうです。ぶすとは、何でしょう。

リターン！

山口 理 作
岡本 順 絵

ブーメランとの出会いが、めんどくさがりで引っこみ思案だったイッキを変えた。そして、はんの仲間も。

つるばら村のパン屋さん

茂市 久美子 作
中村 悦子 絵

宅配パン屋のくるみさんのゆめは、駅前にすてきなお店を開くこと。毎日不思議な注文を受けています。さて、今日のお客さんは。

大どろぼうホッツェンプロッツ

プロイスラー 作
中村 浩三 訳

大どろぼうホッツェンプロッツを、少年たちが追いかけます。ゆかいで、楽しくて、ひやひやするお話です。

オンネリとアンネリのおうち

マリヤッタ＝クレンニエミ 作
マイヤ＝カルマ 絵
渡部 翠 訳

オンネリとアンネリは親友です。ある日二人はお金を拾い、そのお金で自分たちのおうちを買ったのです。

科学・ちしき

夜やってくる動物のお医者さん

高橋 うらら 文

梅原先生は、夜せんもんの動物のお医者さん。車に乗って、病院に行けない病気のペットのちりょうに来てくれます。

冬眠のひみつ

近藤 宣昭 監修

きびしい冬を乗りこえる方法の一つが「冬眠」です。ねむる生き物の体の中では、何が起きているのでしょう。

文化のちがい 習慣のちがい 1モグモグ 食事のマナー

須藤 健一 監修

食事をすわってする国と、立ってする国。食べ方や食事のマナーは、国によってちがうようです。

日食・月食のひみつ

関口 シュン 絵・文
木村 直人 監修

「月食って何だろう」と、ぎもんに思ったヨウスケ。ミヅキさんは、月と太陽の動きについて教えてくれました。

雪の結晶ノート

マーク＝カッシーノ・ジョン＝ネルソン 作
千葉 茂樹 訳

小さな雪の結晶は、一つとして同じ形のものはありません。いったいどのようにして生まれるのでしょう。

算数で観察 フムフム！世界の生き物

アン＝ルーニー 著
みちした のぶひろ 訳
伊藤 真由美・瀬沼 花子・富永 順一 監訳

あなたは、世界中の生き物を調査するチームリーダーです。算数の力を使ったミッションに取り組みましょう。

詩・言葉

写真でわかる慣用句辞典

慣用句を写真で表し、意味を説明しています。慣用句を知っている人も、よく知らない人も楽しめる辞典です。

いわさきちひろ 子どもの幸せと平和を絵にこめて

松本 由理子 文

子どもたちの絵をえがき続けた、いわさきちひろ。だれのために、どんな気持ちでえがいたのかをさぐってみましょう。

明日をつくる 十歳のきみへ

日野原 重明

「長生きすればするほど、もっとたくさんの時間を人のために使いたくなります。」日野原さんの言葉です。

ピカピカ俳句

齋藤 孝 著

おもしろい句、かっこいい句、心が温かくなる句、有名な俳句が大集合。どれもピカピカにかがやいています。

読み終わった本には、□に印を付けましょう。

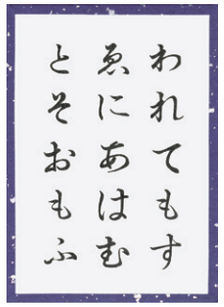
百人一首に親しもう

百人一首は、百人の歌人の短歌を一首ずつ選んで、まとめたものです。藤原定家が選んだとされる「小倉百人一首」が、よく知られています。

百人一首のかるたには、読み札と取り札があり、取り札には、下の句しか書かれていません。読み手が読み上げた短歌を聞いて、その短歌の下の句が書かれた取り札を取って遊びます。

■読み札

■取り札



五・七・五・七・七の前半の五・七・五・七・七を上の句，後半の七・七を下の句といいます。

遊び方1 ― 個人で競う

個人で競う遊び方に、ふつうのかるた取りと同じ、「散らし取り」があります。何人でも遊ぶことができます。

- 百まいの取り札を、ばらばらにならべる。
- 参加者は、札の周りに自由にすわる。
- 読み上げられた短歌の取り札を取る。
- より多くの取り札を取った人の勝ち。

まちがえてちがう取り札を取ってしまったときのルールを決めて、遊ぶこともできます。

遊び方2 ― チームで競う

二つのチームに分かれて遊びます。

- チームごとに、五十まいの取り札を三段に分けてならべる。ならべ方は、チームで自由に考える。
- 読み上げられた短歌の取り札を取る。相手側の取り札を取ったら、自分のチームの取り札の中から、一まいを相手側にわたす。
- 相手側の取り札にまちがってさわった場合、相手側の取り札を一まいもらわなければならない。
- 取り札がなくなったチームの勝ち。

百首全てではなく、二十首ずつ遊ぶなど、自分たちで工夫しながら遊ぶこともできます。

この遊び方は、昔、源氏と平氏という一族どうしが戦ったことにちなみ、「源平合戦」とよばれます。

「む」「す」「め」「ふ」「さ」「ほ」「せ」で始まる歌は、それぞれ一首しかありません。そのため、最初の一音を聞くだけで、取り札をさがすことができます。

む
村雨の露もまだ干ぬまきの葉に
霧立ち昇る秋の夕暮れ

す
住の江の岸に寄る波よるさへや
夢の通ひ路人目よくらむ

め
めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に
雲隠れにし夜半の月かな

ふ
吹くからに秋の草木のしをるれば
むべ山風をあらしと言ふらむ

さ
寂しさに宿を立ち出でてながむれば
いづこも同じ秋の夕暮れ

ほ
ほととぎす鳴きつる方をながむれば
ただ有明の月ぞ残れる

せ
瀬を早み岩にせかるる滝川の
われても末に逢はむとぞ思ふ

これまでに習った漢字

△は、これから習う読み方。（　）は、小学校では習わない読み方。

□2 夏 ⑩ △カ（ゲ）なつ

チェックらん
学年
漢字
画数
読み方

あ

□4 愛 ⑬ アイ
□3 悪 ⑪ アク（オ）わる**い**
□4 安 ⑥ アン やす**い**
□4 案 ⑩ アン
□3 暗 ⑬ アン くら**い**

い

□4 衣 ⑥ イ（ころも）
□4 位 ⑦ イ くらい

□3 医 ⑦ イ
□3 委 ⑧ イ ゆだ**ねる**
□3 意 ⑬ イ
□3 育 ⑧ イク そだ**つ** そだ**てる** はぐく**む**
□1 一 ① △イツ ひと ひと**つ**
□4 茨 ⑨ いばら
□2 引 ④ イン ひ**く** ひ**ける**
□4 印 ⑥ イン しるし
□3 員 ⑩ イン
□3 院 ⑩ イン
□3 飲 ⑫ イン の**む**

う

□1 右 ⑤ △ユウ △ウ みぎ
□2 羽 ⑥ （ウ）はね
□1 雨 ⑧ △ウ あめ あま
□3 運 ⑫ ウン はこ**ぶ**
□2 雲 ⑫ ウン くも

え

□3 泳 ⑧ エイ およ**ぐ**
□4 栄 ⑨ エイ さか**える** （は**え**）（は**える**）
□3 駅 ⑭ エキ
□1 円 ④ エン まる**い**

□4 援 ⑫ （エン）
□2 園 ⑬ エン （その）
□2 遠 ⑬ エン （オン）とお**い**

お

□1 王 ④ オウ
□3 央 ⑤ オウ
□3 横 ⑮ オウ よこ
□4 岡 ⑧ おか
□3 屋 ⑨ オク や
□1 音 ⑨ オン （イン）おと ね
□3 温 ⑫ オン あたた**かい** あたた**まる** あたた**める**

□1 下 ③ ゲカ した しも もと（）さ**げる** くだ**る** くだ**す** くだ**さる** お**ろす** お**りる**

か

□3 化 ④ ケカ ば**ける** ば**かす**
□1 火 ④ カ ほ
□2 何 ⑦ カ（なに）なん
□1 花 ⑦ カ はな
□4 果 ⑧ カ はた**す** はた**て**る
□2 科 ⑨ カ
□2 夏 ⑩ △カ（ゲ）なつ

□2 家 ⑩ カ △や いえ
□4 貨 ⑪ カ
□3 荷 ⑩ カ（に）
□2 歌 ⑭ カ うた うた**う**
□2 画 ⑧ ガ カク
□4 賀 ⑫ ガ
□2 回 ⑥ カイ（エ）まわ**る** まわ**す**
□2 会 ⑥ カイ（エ）あ**う**
□2 海 ⑨ カイ うみ
□3 界 ⑨ カイ
□2 絵 ⑫ △カイ エ
□3 開 ⑫ カイ ひら**く** ひら**ける** あ**く** あ**ける**

□3 階 ⑫ カイ
□1 貝 ⑦ かい
□2 外 ⑤ ガイ（ゲ）そと △ほか はず**す** はず**れる**
□4 街 ⑫ ガイ（カイ）まち
□2 角 ⑦ カク △かど △つの
□4 覚 ⑫ カク おぼ**える** さ**ます** さ**める**
□1 学 ⑧ ガク まな**ぶ**
□2 楽 ⑬ ガク △ラク たの**しい** たの**しむ**
□4 潟 ⑮ かた
□4 活 ⑨ カツ
□4 完 ⑦ カン

□3 具 ⑧ グ
□1 空 ⑧ クウ そら あ**く** あ**ける** から
□4 熊 ⑭ くま
□3 君 ⑦ クン きみ
□4 訓 ⑩ クン
□4 軍 ⑨ グン
□4 郡 ⑩ グン
□4 群 ⑬ グン む**れる** む**れ** むら

け

□2 兄 ⑤ （キョウ）（ケイ）あに
□2 形 ⑦ ケイ ギョウ かた かたち
□4 径 ⑧ ケイ
□3 係 ⑨ ケイ かか**る** かかり

□2 計 ⑨ ケイ はか**る** はから**う**
□3 軽 ⑫ ケイ かる**い** かろ**やか**
□4 欠 ④ ケツ か**ける** か**く**
□3 血 ⑥ ケツ ち
□3 決 ⑦ ケツ き**める** き**まる**
□4 結 ⑫ ケツ むすぶ（ゆう）（ゆ**わえる**）
□1 月 ④ ゲツ ガツ つき
□1 犬 ④ △ケン いぬ
□1 見 ⑦ ケン み**る** み**える** み**せる**
□4 建 ⑨ ケン（コン）た**てる** た**つ**
□3 研 ⑨ ケン（とぎ）
□3 県 ⑨ ケン
□4 健 ⑪ ケン（すこ**やか**）

□2 元 ④ ゲン △ガン もと
□2 言 ⑦ ゲン △ゴン い**う** こと
□2 原 ⑩ ゲン はら

こ

□2 戸 ④ △コ と
□2 古 ⑤ △コ ふる**い** ふる**す**
□3 庫 ⑩ コ（ク）
□3 湖 ⑫ コ みずうみ
□1 五 ④ ゴ いつ いつ**つ**
□2 午 ④ ゴ
□2 後 ⑨ ゴ コウ △のち うし**ろ** あと（おく**れる**）
□2 語 ⑭ ゴ かた**る** かた**らう**
□1 口 ③ コウ △ク くち

□3 寒 ⑫ カン さむ**い**
□2 間 ⑫ カン ケン あいだ ま
□3 感 ⑬ カン
□3 漢 ⑬ カン
□4 関 ⑭ カン せき かか**わる**
□3 館 ⑯ カン やかた
□4 観 ⑱ カン
□2 丸 ③ △ガン まる まる**い** まる**める**
□3 岸 ⑧ ガン きし
□2 岩 ⑧ △ガン いわ
□2 顔 ⑱ △ガン かお

き

□1 気 ⑥ キ ケ
□4 岐 ⑦ （キ）

□3 希 ⑦ キ
□2 汽 ⑦ キ
□4 季 ⑧ キ
□2 記 ⑩ キ △しる**す**
□3 起 ⑩ キ △お**きる** お**こる** お**こす**
□2 帰 ⑩ キ かえ**る** かえ**す**
□3 期 ⑫ キ（ゴ）
□4 旗 ⑭ キ はた
□4 機 ⑯ キ（はた）
□3 客 ⑨ キャク（カク）
□1 九 ② キュウ ここの ここの**つ**
□2 弓 ③ （キュウ）ゆみ
□1 休 ⑥ キュウ やす**む** やす**まる** やす**める**

□3 究 ⑦ キュウ（きわ**める**）
□4 泣 ⑧ （キュウ）な**く**
□3 急 ⑨ キュウ いそ**ぐ**
□3 級 ⑨ キュウ
□3 宮 ⑩ キュウ（グウ）（ク）みや
□3 球 ⑪ キュウ たま
□4 給 ⑫ キュウ
□2 牛 ④ ギュウ うし
□3 去 ⑤ キョ コ さ**る**
□2 魚 ⑪ △ギョ △うお さかな
□4 漁 ⑭ ギョ リョウ
□2 京 ⑧ キョウ（ケイ）
□2 強 ⑪ キョウ（ゴウ）つよ**い** つよ**まる** つよ**める** （し**いる**）

□3 教 ⑪ キョウ おし**える** おそ**わる**
□2 橋 ⑯ キョウ はし
□4 競 ⑳ キョウ ケイ（きそ**う**）（せ**る**）
□3 業 ⑬ ギョウ（ゴウ）（わざ）
□3 曲 ⑥ キョク まが**る** ま**げる**
□3 局 ⑦ キョク
□1 玉 ⑤ △ギョク たま
□2 近 ⑦ キン ちか**い**
□1 金 ⑧ キン △コン かね かな
□3 銀 ⑭ ギン

く

□3 区 ④ ク
□3 苦 ⑧ ク くる**しい** くる**しむ** くる**しめる** にが**い** にが**る**

□3 具 ⑧ グ
□1 空 ⑧ クウ そら あ**く** あ**ける** から
□4 熊 ⑭ くま
□3 君 ⑦ クン きみ
□4 訓 ⑩ クン
□4 軍 ⑨ グン
□4 郡 ⑩ グン
□4 群 ⑬ グン む**れる** む**れ** むら

け

□2 兄 ⑤ （キョウ）（ケイ）あに
□2 形 ⑦ ケイ ギョウ かた かたち
□4 径 ⑧ ケイ
□3 係 ⑨ ケイ かか**る** かかり

□2 計 ⑨ ケイ はか**る** はから**う**
□3 軽 ⑫ ケイ かる**い** かろ**やか**
□4 欠 ④ ケツ か**ける** か**く**
□3 血 ⑥ ケツ ち
□3 決 ⑦ ケツ き**める** き**まる**
□4 結 ⑫ ケツ むすぶ（ゆう）（ゆ**わえる**）
□1 月 ④ ゲツ ガツ つき
□1 犬 ④ △ケン いぬ
□1 見 ⑦ ケン み**る** み**える** み**せる**
□4 建 ⑨ ケン（コン）た**てる** た**つ**
□3 研 ⑨ ケン（とぎ）
□3 県 ⑨ ケン
□4 健 ⑪ ケン（すこ**やか**）

□2 元 ④ ゲン △ガン もと
□2 言 ⑦ ゲン △ゴン い**う** こと
□2 原 ⑩ ゲン はら

こ

□2 戸 ④ △コ と
□2 古 ⑤ △コ ふる**い** ふる**す**
□3 庫 ⑩ コ（ク）
□3 湖 ⑫ コ みずうみ
□1 五 ④ ゴ いつ いつ**つ**
□2 午 ④ ゴ
□2 後 ⑨ ゴ コウ △のち うし**ろ** あと（おく**れる**）
□2 語 ⑭ ゴ かた**る** かた**らう**
□1 口 ③ コウ △ク くち

□2 行 ⑥ コウ ギョウ（アン）いく ゆく おこなう

□2 考 ⑥ △コウ かんがえる

□4 好 ⑥ コウ このむ すく

□3 向 ⑥ コウ むく むける むかう むこう

□2 光 ⑥ コウ ひかる ひかり

□2 交 ⑥ コウ まじわる まじえる まじる まざる まぜる（かう）（かわす）

□2 広 ⑤ コウ ひろい ひろまる ひろめる ひろがる ひろげる

□2 公 ④ コウ（おおやけ）

□2 工 ③ コウ ク

□2 国 ⑧ コク くに

□2 谷 ⑦ （コク）たに

□2 合 ⑥ ゴウ ガッ △カッ あう あわす あわせる

□3 号 ⑤ ゴウ

□3 港 ⑫ コウ みなと

□2 黄 ⑪ （コウ）△オウ き（こ）

□4 康 ⑪ コウ

□2 高 ⑩ コウ たかい たか たかまる たかめる

□1 校 ⑩ コウ

□4 香 ⑨ （コウ）（キョウ）かおり かおる

□3 幸 ⑧ コウ さいわい（さち）しあわせ

□4 崎 ⑪ さき

□4 材 ⑦ ザイ

□4 埼 ⑪ さい

□4 最 ⑫ サイ もっとも

□4 菜 ⑪ サイ な

□2 細 ⑪ △サイ ほそい ほそる こまかい こま

□3 祭 ⑪ サイ まつる まつり

□2 才 ③ サイ

□4 佐 ⑦ サ

□1 左 ⑤ △サ ひだり

さ

□3 根 ⑩ コン ね

□2 今 ④ コン（キン）いま

□2 黒 ⑪ コク くろ くろい

□3 仕 ⑤ シ（ジ）つかえる

□4 氏 ④ シ（うじ）

□2 止 ④ △シ とまる とめる

□1 子 ③ シ こ

し

□2 算 ⑭ サン

□4 散 ⑫ サン ちる ちらす ちらかす ちらかる

□1 山 ③ サン やま

□1 三 ③ サン み（みっ）みっつ

□3 皿 ⑤ サン さら

□4 昨 ⑨ サク

□2 作 ⑦ サク つくる

□3 詩 ⑬ シ

□4 試 ⑬ シ こころみる（ためす）

□3 歯 ⑫ シ は

□2 紙 ⑩ シ かみ

□3 指 ⑨ シ ゆび さす

□2 思 ⑨ △シ おもう

□2 姉 ⑧ （シ）あね

□3 始 ⑧ シ はじめる はじまる

□3 使 ⑧ シ つかう

□1 糸 ⑥ △シ いと

□3 死 ⑥ シ しぬ

□2 矢 ⑤ （シ）や

□2 市 ⑤ シ いち

□1 四 ⑤ シ よ（よっ）よっつ よん

□1 七 ② シチ なな なのつ

□3 式 ⑥ シキ

□4 鹿 ⑪ しか

□4 辞 ⑬ ジ（やめる）

□4 滋 ⑫ （ジ）

□2 時 ⑩ ジ とき

□3 持 ⑨ ジ もつ

□3 事 ⑧ （ズ）ジ こと

□4 児 ⑦ （ニ）ジ

□2 自 ⑥ △シ ジ △みずから

□1 耳 ⑥ （ジ）みみ

□3 次 ⑥ （シ）ジ つぐ つぎ

□2 寺 ⑥ ジ てら

□1 字 ⑥ ジ（あざ）

□2 首 ⑨ シュ くび

□3 取 ⑧ シュ とる

□3 守 ⑥ シュ まもる（もり）

□3 主 ⑤ シュ（ス）おもぬし

□1 手 ④ シュ（た）て

□2 弱 ⑩ ジャク よわい よる よわまる よわめる

□3 者 ⑧ シャ もの

□1 車 ⑦ シャ くるま

□2 社 ⑦ シャ やしろ

□3 写 ⑤ シャ うつす うつる

□3 実 ⑧ ジツ みのる

□2 室 ⑨ シツ（むろ）

□3 酒 ⑩ シュ さけ さか

□3 受 ⑧ ジュ うける うかる

□3 州 ⑥ シュウ（す）

□3 拾 ⑨ （シュウ）（ジュウ）ひろう

□2 秋 ⑨ シュウ あき

□3 終 ⑪ シュウ おわる おえる

□3 習 ⑪ シュウ ならう

□2 週 ⑪ シュウ

□3 集 ⑫ シュウ あつまる あつめる（つどう）

□1 十 ② ジュウ ジッ〈ジュッ〉△とお

□3 住 ⑦ ジュウ すむ すまう

□3 重 ⑨ ジュウ チョウ おもい かさねる かさなる え

□3 助 ⑦ ジョ たす たすける たすかる（すけ）

□1 女 ③ △ジョ（ニョ）（ニョウ）（おんな）（め）

□3 暑 ⑫ ショ あつい

□2 書 ⑩ ショ かく

□3 所 ⑧ ショ ところ

□4 初 ⑦ ショ はじめて はじめ はつ（うい）（そめる）

□4 順 ⑫ ジュン

□2 春 ⑨ シュン はる

□1 出 ⑤ シュツ（スイ）でる だす

□3 宿 ⑪ シュク やど やどる やどす

□4 祝 ⑨ シュク（シュウ）いわう

□3 乗 ⑨ ジョウ のる のせる

□1 上 ③ （ジョウ）（ショウ）うえ かみ あげる あがる（のぼる）（のぼす）

□4 照 ⑬ ショウ てる てらす てれる

□3 勝 ⑫ ショウ かつ（まさる）

□3 章 ⑪ ショウ

□3 商 ⑪ ショウ（あきなう）

□3 消 ⑩ ショウ きえる けす

□3 昭 ⑨ ショウ

□2 少 ④ ショウ すくない すこし

□1 小 ③ ショウ ちいさい こ △お

□3 真 ⑩ シン ま

□3 神 ⑨ シン（じん）（かん）（こう）

□4 信 ⑨ シン

□3 身 ⑦ シン み

□4 臣 ⑦ シン

□3 申 ⑤ （シン）もう す

□2 心 ④ シン こころ

□3 植 ⑫ ショク うえる うわる

□2 食 ⑨ ショク（ジキ）くう（くらう）たべる

□2 色 ⑥ △ショク △シキ いろ

□4 縄 ⑮ （ジョウ）なわ

□2 場 ⑫ ジョウ ば

□4 城 ⑨ ジョウ しろ

□4 井 ④ （セイ）（ショウ）い

せ

□2 数 ⑬ スウ（ス）かず かぞえる

□1 水 ④ スイ みず

□2 図 ⑦ ズ トず（はかる）

す

□1 人 ② ジン（ニン）ひと

□2 親 ⑯ シン おや したしい したしむ

□2 新 ⑬ シン あら たしい あらた にい

□1 森 ⑫ シン もり

□3 進 ⑪ シン すす む すすめる

□3 深 ⑪ シン ふか い ふかまる ふかめる

□2 星 ⑨ △セイ（ショウ）ほし

□1 青 ⑧ セイ（ショウ）あお あおい

□2 声 ⑦ セイ（ショウ）こえ（こわ）

□2 西 ⑥ △セイ サイ にし

□4 成 ⑥ セイ（ジョウ）なる なす

□1 生 ⑤ セイ（ショウ）△なま（き）はえる はやす おう うむ うまれる いける いかす いきる

□1 正 ⑤ セイ（ショウ）△まさ ただす ただしい

□3 世 ⑤ セイ よ

□2 切 ④ セツ（サイ）きる きれる

□4 席 ⑩ セキ

□3 昔 ⑧ （セキ）（シャク）むかし

□1 赤 ⑦ △セキ（シャク）あか あかい あかむ あからめる

□1 石 ⑤ セキ △シャク（コク）いし

□1 夕 ③ セキ（ゆう）

□3 整 ⑯ セイ ととのえる ととのう

□4 静 ⑭ セイ（ジョウ）しず しずか しずまる しずめる

□2 晴 ⑫ セイ はれる はらす

□4 清 ⑪ セイ（ショウ）きよい きよまる きよめる

そ

- 組 ⑪ △ソ **くむ** くみ
- 前 ⑨ ゼン まえ
- 全 ⑥ ゼン まったく すべて
- 選 ⑮ セン えらぶ
- 線 ⑮ セン
- 戦 ⑬ セン（いくさ） たたかう
- 船 ⑪ セン △ふな ふね
- 先 ⑥ セン さき
- 川 ③ セン（かわ）
- 千 ③ セン ち
- 説 ⑭ セツ（ゼイ） とく
- 節 ⑬ セツ（セチ） ふし
- 雪 ⑪ セツ ゆき

た

- 村 ⑦ ソン むら
- 卒 ⑧ ソツ
- 族 ⑪ ゾク
- 速 ⑩ ソク はや **いはやめる** **はやまる** （すみやか）
- 息 ⑩ ソク いき
- 足 ⑦ ソク あし **たりる** **たす**
- 想 ⑬ ソウ（ソ）
- 送 ⑨ ソウ **おくる**
- 草 ⑨ ソウ くさ
- 相 ⑨ ソウ（ショウ） あい
- 走 ⑦ ソウ **はしる**
- 争 ⑥ ソウ **あらそう**
- 早 ⑥ （サッ）ソウ はや **いはやまる** **はやめる**
- 代 ⑤ タイ（よ） **かわる** **かえる** （しろ）
- 大 ③ タイ おお **おおきい** **おおいに**
- 隊 ⑫ タイ
- 帯 ⑩ タイ おび **びる**
- 待 ⑨ タイ **まつ**
- 体 ⑦ タイ（テイ） からだ
- 対 ⑦ タイ（ツイ）
- 太 ④ △タイ **ふとい** **ふとる**
- 打 ⑤ ダ **うつ**
- 多 ⑥ タ おお **おい**
- 他 ⑤ タ ほか
- 竹 ⑥ △チク たけ
- 置 ⑬ チ **おく**
- 知 ⑧ チ **しる**
- 池 ⑥ チ いけ
- 地 ⑥ チ ジ

ち

- 談 ⑮ ダン
- 男 ⑦ △ダン △ナン おとこ
- 短 ⑫ タン みじか **い**
- 炭 ⑨ タン すみ
- 単 ⑨ タン
- 達 ⑫ タツ
- 題 ⑱ ダイ
- 第 ⑪ ダイ
- 台 ⑤ △ダイ
- 朝 ⑫ チョウ あさ
- 鳥 ⑪ △チョウ とり
- 帳 ⑪ チョウ
- 長 ⑧ チョウ **ながい**
- 町 ⑦ チョウ まち
- 丁 ② チョウ（テイ）
- 柱 ⑨ チュウ はしら
- 昼 ⑨ チュウ ひる
- 注 ⑧ チュウ そそ**ぐ**
- 沖 ⑦ チュウ（おき）
- 虫 ⑥ チュウ むし
- 中 ④ チュウ ジュウ なか **つく** **つける**
- 着 ⑫ チャク（ジャク） **きる** **きせる**
- 茶 ⑨ チャ（サ）

つ

- 調 ⑮ チョウ しら**べる** （ととの**う**） （ととの**える**）
- 直 ⑧ △チョク △ジキ △**ただちに** なお **なおす** **なおる**
- 追 ⑨ ツイ お**う**
- 通 ⑩ ツウ（ツ） とお **とおる** **とおす** かよ**う**

て

- 弟 ⑦ テイ（デ） ダイ おとと
- 定 ⑧ テイ ジョウ さだ**める** **さだまる** （さだ**か**）
- 庭 ⑩ テイ にわ
- 的 ⑧ テキ まと
- 笛 ⑪ テキ ふえ
- 鉄 ⑬ テツ
- 天 ④ テン（あま） あめ
- 典 ⑧ テン
- 店 ⑧ テン みせ
- 点 ⑨ テン
- 転 ⑪ テン **ころがる** **ころげる** **ころがす** **ころぶ**
- 田 ⑤ デン た
- 伝 ⑥ デン **つたわる** **つたえる** **つたう**
- 電 ⑬ デン

と

- 徒 ⑩ ト
- 都 ⑪ ト みやこ
- 土 ③ ド つち
- 度 ⑨ ド（ト） （タク） たび
- 刀 ② △トウ かたな
- 冬 ⑤ △トウ ふゆ
- 灯 ⑥ トウ（ひ）
- 当 ⑥ トウ **あたる** **あてる**
- 投 ⑦ トウ **なげる**
- 豆 ⑦ トウ まめ
- 東 ⑧ トウ ひがし
- 島 ⑩ トウ しま
- 湯 ⑫ トウ ゆ
- 登 ⑫ トウ のぼ**る**
- 答 ⑫ トウ **こたえる** **こたえ**
- 等 ⑫ トウ ひと**しい**
- 頭 ⑯ ズ トウ（ト） あたま （かしら）
- 同 ⑥ ドウ おな**じ**
- 動 ⑪ ドウ **うごく** **うごかす**
- 童 ⑫ ドウ（わらべ）
- 道 ⑫ ドウ（トウ） みち
- 働 ⑬ ドウ はたら**く**
- 特 ⑩ トク
- 徳 ⑭ トク
- 読 ⑭ △トク ドク △トウ よ**む**

な

- 奈 ⑧ ナ
- 内 ④ ナイ（ダイ） うち
- 梨 ⑪ なし
- 栃 ⑨ とち
- 南 ⑨ ナン（ナ） みなみ
- 二 ② ニ ふた **ふたつ**
- 肉 ⑥ ニク
- 日 ④ ジツ ニチ かひ
- 入 ② ニュウ **いる** **いれる** はい
- 熱 ⑮ ネツ あつ**い**
- 年 ⑥ ネン とし

の

- 農 ⑬ ノウ

は

- 波 ⑧ ハ なみ
- 発 ⑨ ハツ（ホツ）
- 八 ② ハチ や **やつ** **やっつ** よう
- 畑 ⑨ はた はたけ
- 箱 ⑮ はこ
- 麦 ⑦ バク（むぎ）
- 白 ⑤ △ハク（ビャク） しろ **しろい** しら
- 買 ⑫ △バイ か**う**
- 梅 ⑩ バイ うめ
- 倍 ⑩ バイ
- 売 ⑦ バイ **うる** **うれる**
- 配 ⑩ ハイ くば**る**
- 馬 ⑩ バ うま
- 反 ④ ハン（ホン） （タン） そる **そらす**
- 半 ⑤ ハン △なか**ば**
- 坂 ⑦ ハン（ハン） さか
- 阪 ⑦ ハン（ハン）
- 板 ⑧ ハン バン いた
- 番 ⑫ バン

ひ

- 皮 ⑤ ヒ かわ
- 飛 ⑨ ヒ **とぶ** **とばす**
- 悲 ⑫ ヒ かな**しい** かな**しむ**
- 美 ⑨ ビ うつく**しい**
- 鼻 ⑭ ビ（び） はな
- 必 ⑤ ヒツ かならず
- 筆 ⑫ ヒツ ふで
- 百 ⑥ ヒャク
- 氷 ⑤ ヒョウ こおり（ひ）
- 表 ⑧ ヒョウ おもて **あらわす** **あらわれる**
- 秒 ⑨ ビョウ
- 病 ⑩ ビョウ（ヘイ） **やむ** やまい
- 品 ⑨ ヒン しな

ふ

- 夫 ④ フ（フウ） おっと
- 父 ④ △フ ちち
- 府 ⑧ フ
- 阜 ⑧ フ
- 負 ⑨ フ **まける** **まかす** お**う**
- 富 ⑫ フ（フウ） とみ **む**
- 風 ⑨ フウ（フ） かぜ
- 部 ⑪ ブ
- 服 ⑧ フク
- 副 ⑪ フク
- 福 ⑬ フク
- 物 ⑧ ブツ モツ もの
- 分 ④ ブン フン ブ わ **ける** わ**かれる** わ**かる** わ**かつ**
- 文 ④ ブン モン（モ） （ふみ）
- 聞 ⑭ ブン（モン） き**く** き**こえる**

この本で習う漢字

（　）は、小学校では習わない読み方。

11 ページ
変 9画 漢字 画数
（ヘン）かわる かえる 変変変変変変変変 変化 変身 うつり変わり 場所を変える 読み方 使い方 筆順

ごんぎつね

11 変 9画
変変変変変変変変 ヘン 変化 変身 かわる かえる うつり変わり 場所を変える

12 種 14画
種種種種種種種種種 シュ たね 種類 種目 種まき 菜種

13 続 13画
続続続続続続続続続 ゾク つづく つづける 連続 続出 雨がふり続く 話を続ける

クラスみんなで決めるには

19 折 7画
折折折折折折折 セツ おる おり おれる 右折 折半 ふみ折る 四季折々 えだが折れる

21 積 16画
積積積積積積積積積 セキ つむ つもる 積極的 面積 かごを積む 雪が積もる

22 飯 12画
飯飯飯飯飯飯飯飯飯 ハン めし ご飯 昼飯 夕飯

23 松 8画
松松松松松松松松 ショウ まつ 松竹梅 松たけ 松林

24 不 4画
不不不不 フ ブ 不思議 不気味 不安

24 議 20画
議議議議議議議議議議 ギ 不思議 議題

26 差 10画
差差差差差差差差差差 サ さす 大差 交差点 明かりが差す

26 念 8画
念念念念念念念念 ネン お念仏 記念

26 連 10画
連連連連連連連連連連 レン つらなる つらねる つれる 連続 連休 車が連なる 名前を連ねる 家族で連れ立つ

30 景 12画
景景景景景景景景景景景景 ケイ 情景 風景

31 末 5画
末末末末末 マツ（バツ） すえ 結末 文末 行く末

36 司 5画
司司司司司 シ 司会 上司

36 録 16画
録録録録録録録録録録録録録録録録 ロク 記録 録音

37 参 8画
参参参参参参参参 サン まいる 参加 参考 お宮参り

37 加 5画
加加加加加 カ くわえる くわわる 参加 加入 さとうを加える 活動に加わる

38 挙 10画
挙挙挙挙挙挙挙挙挙挙 キョ あげる あがる 選挙 挙手 手を挙げる 実例が挙がる

39 協 8画
協協協協協協協協 キョウ 協力 協調

41 験 18画
験験験験験験験験験験験験験験験験験験 ケン（ゲン） 経験 実験

へ

□3 平 ⑤ ヘイ ビョウ たいら ひら
□4 兵 ⑦ ヘイ ヒョウ
□2 米 ⑥ △ベイ マイ こめ
□4 別 ⑦ ベツ わかれる
□3 返 ⑦ ヘン かえす かえる
□3 勉 ⑩ ベン

ほ

□2 歩 ⑧ ホ（フ）（ブ） あるく あゆむ
□2 母 ⑤ △ボ はは
□2 方 ④ ホウ かた
□4 包 ⑤ ホウ つつむ
□3 放 ⑧ ホウ はなす はなつ はなれる ほうる

み

□4 法 ⑧ ホウ（ハッ）（ホッ）
□4 望 ⑪ ボウ（モウ） のぞむ
□2 北 ⑤ ホク きた
□1 木 ④ △ボク モク △こ き
□1 本 ⑤ ホン もと

ま

□2 毎 ⑥ マイ
□2 妹 ⑧ （マイ） いもうと
□2 万 ③ マン（バン）
□4 満 ⑫ マン みちる みたす

め

□4 未 ⑤ ミ
□3 味 ⑧ ミ あじ あじわう
□4 民 ⑤ ミン（たみ）

も

□1 名 ⑥ △メイ ミョウ な
□3 命 ⑧ （メイ） （ミョウ） いのち
□2 明 ⑧ △メイ ミョウ あかり あかるい あかるむ あからむ あきらか あける あく あくる あかす
□2 鳴 ⑭ メイ なく なる ならす
□3 面 ⑨ メン（おも）（おもて） つら
□1 目 ⑤ モク（ボク） め ま
□2 毛 ④ モウ け
□2 門 ⑧ モン（かど）

や

□3 問 ⑪ モン とう とん
□2 夜 ⑧ ヤ よる よ
□2 野 ⑪ ヤ の
□3 役 ⑦ ヤク（エキ）
□4 約 ⑨ ヤク
□3 薬 ⑯ ヤク くすり

ゆ

□3 由 ⑤ ユウ（ユイ）（よし）
□3 油 ⑧ ユ あぶら
□2 友 ④ ユウ とも
□3 有 ⑥ （ユウ） ある
□4 勇 ⑨ ユウ いさむ
□3 遊 ⑫ （ユウ） あそぶ

よ

□3 予 ④ ヨ
□2 用 ⑤ ヨウ もちいる
□3 羊 ⑥ ヨウ ひつじ
□3 洋 ⑨ ヨウ
□4 要 ⑨ ヨウ かなめ （いる）
□3 葉 ⑫ ヨウ は
□3 陽 ⑫ ヨウ
□3 様 ⑭ ヨウ さま
□4 養 ⑮ ヨウ やしなう
□2 曜 ⑱ ヨウ

ら

□2 来 ⑦ ライ くる （きたる） （きたす）
□3 落 ⑫ ラク おちる おとす

り

□2 里 ⑦ △リ さと
□2 理 ⑪ リ
□1 立 ⑤ （リツ） （リュウ） たつ たてる
□3 流 ⑩ リュウ （ル） ながれる ながす
□3 旅 ⑩ リョ たび
□3 両 ⑥ リョウ
□4 良 ⑦ リョウ よい
□4 料 ⑩ リョウ
□1 力 ② △リキ リョク ちから
□3 緑 ⑭ リョク （ロク） みどり
□1 林 ⑧ リン はやし
□4 輪 ⑮ リン わ

る

□4 類 ⑱ ルイ たぐい

れ

□4 令 ⑤ レイ
□3 礼 ⑤ レイ （ライ）
□4 例 ⑧ レイ たとえる
□3 列 ⑥ レツ
□3 練 ⑭ レン ねる

ろ

□3 路 ⑬ ロ じ
□1 六 ④ ロク むつ むっつ むい

わ

□3 和 ⑧ ワ（オ） （やわらぐ） （やわらげる） （なごむ） （なごやか）
□2 話 ⑬ ワ はなす はなし

41 極 12画
キョク　積極的　南極
（ゴク）
（きわめる）（きわまる）（きわみ）

世界にほこる和紙

43 芸 7画
ゲイ　工芸　園芸

44 無 12画
ム　無形　無理
ブ　無事　無礼
ない　無い物ねだり

44 械 11画
カイ　機械

46 以 5画
イ　以上　以外

46 博 12画
ハク　博物館
（バク）

47 管 14画
カン　保管　管理
くだ　ゴムの管

48 便 9画
ベン　便利　便所
ビン　便せん　郵便
たより　風の便り

48 孫 10画
ソン　子孫
まご　初孫　孫の手

51 量 12画
リョウ　分量　大量
はかる　米を量る

59 借 10画
シャク　借用　借家
かりる　本を借りる

慣用句

59 仲 6画
（チュウ）　仲間　仲直り
なか

59 底 8画
テイ　海底
そこ　川底　底力

59 浅 9画
（セン）　底が浅い
あさい

59 焼 12画
（ショウ）　世話を焼く
やく　日に焼ける
やける

プラタナスの木

66 利 7画
リ　有利　利点
（きく）

66 笑 10画
（ショウ）　大声で笑う
わらう
（えむ）

68 省 9画
セイ　帰省　反省
ショウ　省略
（かえりみる）
はぶく　説明を省く

68 残 10画
ザン　残金
のこる　心に残る
のこす　おかずを残す

68 周 8画
シュウ　一周
まわり　池の周り

71 課 15画
カ　放課後　課題

71 然 12画
ゼン　当然　自然
ネン　天然

71 浴 10画
ヨク　入浴　海水浴
あびる　日を浴びる
あびせる　水を浴びせる

73 芽 8画
ガ　発芽
め　芽生え

感動を言葉に

78 改 7画
カイ　改行　改良
あらため　行いを改める
あらたまる　年が改まる

自分だけの詩集を作ろう

83 共 6画
キョウ　共通　公共
とも　共に行動する

熟語の意味

85 願 19画
ガン　願望　念願
ねがう　お願いする

85 失 5画
シツ　消失　失礼
うしなう　気を失う

85 辺 5画
ヘン　周辺　近辺
あたり　辺り一面
べ　海辺　岸辺

85 低 7画
テイ　高低　最低
ひく　低い山
ひくめる　声を低める
ひくまる　気温が低まる

85 敗 11画
ハイ　勝敗　失敗
やぶれる　戦いに敗れる

85 老 6画
ロウ　老木　老人
おいる　年老いた父
（ふける）

85 束 7画
ソク　約束　結束
たば　花束　束ねる

85 票 11画
ヒョウ　開票　一票

85 陸 11画
リク　着陸　陸地

ウナギのなぞを追って

89 各 6画
カク　各地　各段落
（おのおの）

89 産 11画
サン　原産地　出産
うむ　たまごを産む
うまれる　犬が産まれる
（うぶ）

90 求 7画
キュウ　追求　要求
もとめる　追い求める

93 付 5画
フ　付近　付録
つける　わり付け
つく　へばり付く

94 固 8画
コ　固定　固有
かためる　雪を固める
かたまる　土が固まる
かたい　頭が固い

94 塩 13画
エン　塩分　食塩
しお　塩をふる

94 側 11画
ソク　側面
がわ〈かわ〉　南側　右側

99 労 7画
ロウ　苦労　労働

つながりに気をつけよう

101 標 15画
ヒョウ　目標　標本

101 官 8画
カン　器官　長官

102 巣 11画
（ソウ）　クモの巣　巣箱
す

102 候 10画
コウ　気候　天候
（そうろう）

104 察 14画
サツ　観察　考察

104
兆
6画

兆兆兆兆兆兆
チョウ　一兆
（きざす）
（きざし）

104
億
15画

億億億億億億億億
オク　一億

104
鏡
19画

鏡鏡鏡鏡鏡鏡鏡鏡
キョウ　望遠鏡　鏡台
かがみ　手鏡　鏡開き

もしものときにそなえよう

105
害
10画

害害害害害害害
ガイ　災害　有害

111
刷
8画

刷刷刷刷刷刷刷刷
サツ　印刷物　刷新
する　新聞を刷る

まちがえやすい漢字

117
治
8画

治治治治治治治治
ジ　政治　自治会　治安
チ　国を治める
おさめる　いたみが治まる
おさまる　きずが治る
なおる　むし歯を治す
なおす

117
努
7画

努努努努努努努
ド　努力
つとめる　学業に努める

118
倉
10画

倉倉倉倉倉倉倉倉
ソウ　倉庫
くら　米倉

118
札
5画

札札札札札
サツ　お札　表札
ふだ　名札

118
功
5画

功功功功功
コウ　成功
（ク）

118
器
15画

器器器器器器器器
キ　楽器　器官
（うつわ）

118
英
8画

英英英英英英英
エイ　英語

118
牧
8画

牧牧牧牧牧牧牧
ボク　牧場　遊牧
（まき）

初雪のふる日

122
冷
7画

冷冷冷冷冷冷冷
レイ　冷気　寒冷
つめたい　風が冷たい
ひえる　体が冷える
ひや　冷やあせ
ひやす　頭を冷やす
ひやかす　弟を冷やかす
さめる　お茶が冷める
さます　熱を冷ます

126
唱
11画

唱唱唱唱唱唱唱
ショウ　合唱　暗唱
となえる　平和を唱える

言葉のたから箱

考えや気持ちを伝える言葉

人物や出来事について説明するときや、自分の考えや感想を伝えるときに役立てましょう。

人物を表す言葉

- のんき
- 温和
- 気のいい
- 行動力のある
- 根気強い
- 器用
- 用心深い
- 強がり
- 生意気
- ずうずうしい

物や事がらを表す言葉

- かんぺき
- さすが
- せいけつ
- きょうみ深い
- ゆとりのある
- 重大
- 力強い
- はげしい
- ささやか
- 単調
- きつい
- あらい
- 気味が悪い
- あやしい
- 弱点
- かた苦しい

考え方を表す言葉

- 例えば——
- たとえ——だとしても
- ——によると
- ——かもしれない
- ——のはずだ
- ——にちがいない

気持ちを表す言葉

- うっとり
- ぐっとくる
- 好む
- 親しむ
- こいしい
- いたわる
- ほこらしい
- しんけん
- はり切る
- 注目
- 思いこむ
- こだわる
- こりる
- 苦心
- しんぼう
- こらえる
- ふきげん
- 心が晴れる
- 心がはずむ
- 冷やあせをかく
- はらを決める
- 気が遠くなる
- 気がすむ
- 気が重い
- 熱が冷める

慣用句に親しもう

「心」や「気」を使った慣用句には、人のせいかくや気持ちを表すものが多くあります。国語辞典などを使って、さがしてみましょう。

「心が晴れる」「気が晴れる」のように、下の部分が共通しているものもあります。意味にちがいがあるのかたしかめてみましょう。

学習に用いる言葉

国語の学習で、よく使われる言葉です。意味や使い方をたしかめて、学習に役立てましょう。

情景
物語や詩において、登場人物の気持ちとひびき合うようにえがかれた風景や場面の様子。その登場人物の目にうつった景色や、耳に聞こえた音などとして、修飾語とともにえがかれることが多い。
会話文や地の文で、登場人物の気持ちが分かる言葉がなくても、情景から人物の気持ちを想像することができる。

30ページ

議題
話し合いや会議などで取り上げる題材のこと。生活の中の問題点や、参加者の関心のあることなど、話し合うことによって何かを決めたり、たがいの考えを交流したりしたい事がらを選ぶとよい。
議題を、話し合いの初めにたしかめたり、いつも参加者から見えるところにしめしておいたりすると、参加者が話し合いの方向性を理解でき、うまく進行しやすくなる。

37ページ

出典
話や文章の中で、引用したり参考にしたりした本や資料などのこと。本の場合は、①著者（作者）名、②書名、③出版社名、④発行年をしめす。ウェブサイトの場合は、⑤ウェブサイト名と、⑥サイト管理者の名前などのじょうほうをしめす。

〈出典のしめし方の例〉
- 本の場合
  ①増田勝彦「②世界にほこる和紙」③○○図書、④二〇二〇年
- ウェブサイトの場合
  ⑤「防災情報のページ」（⑥内閣府ウェブサイト）

意見文やほうこく文などでは、末尾で出典をしめしておくことで、読んだ人が、同じ本や資料などを後からさがして読むことができる。

55ページ

これまでに学んだ言葉

アンケート調査
多くの人に同じしつもんをして調べる方法。答えを書きこんでもらったり、用意した答えの中から選んでもらったりする。

かじょう書き
事がらを、短く、一つ一つ分けて書きならべる書き方のこと。「・」「①②……」など、記号や数字を用いることが多い。

取材
知りたいことなどについて、さまざまな方法で調べて材料を集めること。実際に見たり聞いたりする、本やインターネットで調べる、アンケート調査をするなどの方法がある。

対比
二つのものをくらべて、ちがいをはっきりさせること。

設定
時（いつの話か）、場所（どこの話か）、登場人物（だれが出てくる話か）など、その物語全体に関わることをいう。物語の始まりに書かれていることが多い。

見出し
文章のまとまりの初めに置かれる、要点を短くまとめた言葉。

要点
物事や人の話などの中心となる、大事な事がらのこと。

要約
目的や必要におうじて、話や本、文章の内容を短くまとめること。元の文章の組み立てや表現をいかしてまとめるものと、自分の言葉に言いかえてまとめるものとがある。

わりつけ
新聞などで、記事や見出し、写真・図などの大きさと、入れる場所を決めること。